

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月26日

【事業年度】 第135期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 日本パーカライジング株式会社

【英訳名】 NIHON PARKERIZING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 社長執行役員 松本 満

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋一丁目15番1号

【電話番号】 03(3278)4333(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 管理本部長 田村 裕保

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋一丁目15番1号

【電話番号】 03(3278)4333(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 管理本部長 田村 裕保

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
日本パーカライジング株式会社 東日本事業部
(神奈川県平塚市堤町3番9号)
日本パーカライジング株式会社 中京営業所
(名古屋市瑞穂区桃園町4番18号)
日本パーカライジング株式会社 西日本事業部
(大阪府吹田市広芝町11番41-1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近5連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

回次		第131期	第132期	第133期	第134期	第135期
決算年月		2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高	(百万円)	109,063	109,569	114,840	129,207	119,028
経常利益	(百万円)	17,921	18,779	20,750	20,130	15,723
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	10,320	12,228	12,721	11,424	9,449
包括利益	(百万円)	4,773	14,446	20,256	7,999	9,564
純資産額	(百万円)	137,890	146,502	163,255	166,759	170,947
総資産額	(百万円)	189,377	196,248	219,988	218,818	216,773
1株当たり純資産額	(円)	939.41	1,016.20	1,140.28	1,167.46	1,203.34
1株当たり当期純利益	(円)	83.24	99.14	104.85	94.20	78.87
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)				-	-
自己資本比率	(%)	61.5	62.5	62.9	64.2	66.1
自己資本利益率	(%)	8.9	10.2	9.7	8.2	6.7
株価収益率	(倍)	12.2	13.9	16.6	14.7	14.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	19,034	16,050	19,238	17,292	17,514
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,391	5,002	4,739	10,299	8,732
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,747	6,386	4,041	5,663	6,109
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	38,519	42,284	53,149	53,726	56,507
従業員数	(名)	3,886	4,022	4,222	4,353	4,385

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

4 臨時従業員の総数は、従業員数の100分の10未満のため記載しておりません。

5 2015年4月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。第131期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。

6 「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、第132期連結会計年度より1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

7 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第134期の期首から適用しており、第133期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第131期	第132期	第133期	第134期	第135期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (百万円)	42,596	43,387	46,687	51,381	46,786
経常利益 (百万円)	8,764	8,694	10,154	9,305	7,136
当期純利益 (百万円)	6,315	7,473	7,764	8,933	5,441
資本金 (百万円)	4,560	4,560	4,560	4,560	4,560
発行済株式総数 (株)	132,604,524	132,604,524	132,604,524	132,604,524	132,604,524
純資産額 (百万円)	69,902	73,230	81,751	82,678	81,557
総資産額 (百万円)	96,133	101,121	114,643	115,524	113,333
1株当たり純資産額 (円)	551.15	589.77	658.37	672.86	671.61
1株当たり配当額 (円)	16.50	20.00	23.00	22.00	24.00
(内1株当たり 中間配当額) (円)	(7.50)	(10.00)	(10.00)	(11.00)	(11.00)
1株当たり当期純利益 (円)	49.79	59.23	62.53	71.99	44.49
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)				-	-
自己資本比率 (%)	72.7	71.8	71.3	71.6	72.0
自己資本利益率 (%)	9.1	10.4	10.0	10.9	6.6
株価収益率 (倍)	20.4	23.2	27.8	19.2	25.2
配当性向 (%)	33.1	33.8	36.8	30.6	53.9
従業員数 (名)	796	806	797	892	916
株主総利回り (%)	71.1	97.1	123.5	100.6	84.2
(比較指標: 配当込み TOPIX) (%)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	1,467	1,498	2,067	1,779	1,534
最低株価 (円)	899	922	1,309	1,170	863

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3 従業員数は、就業人員数を表示しております。
4 臨時従業員の総数は、従業員数の100分の10未満のため記載しておりません。
5 2015年4月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。第131期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。
6 「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、第132期事業年度より1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
7 2018年3月期の1株当たり配当額23.00円には、創立90周年記念配当2円を含んでおります。
8 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
9 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第134期の期首から適用しており、第133期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
10 第134期において、連結子会社であるパーカー興産(株)を吸収合併しております。

2 【沿革】

1928年7月	会社創立、東京都千代田区に本社を設置
1928年7月	米国のパーカー・ラストプルーフ社から技術導入
1948年12月	(株)城南パーカライジング工場(現 パーカー加工(株))を設立
1951年8月	当社営業部門の一部を分離し、パーカー商事(株)(現 (株)パーカーコーポレーション)を設立
1960年3月	新東和通商(株)(現 パーカーエンジニアリング(株))を買収
1961年10月	東京証券取引所市場第二部に上場
1962年2月	熱処理事業部を設置、熱処理事業を開始
1963年5月	群馬県前橋市に前橋工場を設置
1964年11月	大阪市に関西事業部を設置
1965年9月	神奈川県平塚市に平塚第二工場を設置
1967年2月	台湾に合弁会社中日金属化工(株)を設立
1967年9月	東京証券取引所市場第一部に上場
	兵庫県伊丹市に伊丹工場を設置
1968年4月	茨城県総和町に古河工場を設置
1968年5月	北九州市に九州第一工場・九州第二工場を設置
1969年2月	茨城県勝田市に勝田工場を設置
1969年5月	神奈川県平塚市に平塚第一工場を設置
1970年5月	大阪証券取引所市場第一部に上場
1971年3月	千葉県船橋市に船橋工場を設置
1971年5月	名古屋市に中京事業部を設置
1971年6月	広島県福山市に福山工場を設置
1972年5月	パーカー興産(株)を設立
1973年12月	福岡県水巻町に九州第三工場を設置
1978年12月	宮城県岩沼市に仙台工場を設置
1979年6月	米国にツルテック(株)を設立
1979年7月	タイにタイパーカライジング(株)を設立
1979年12月	栃木県宇都宮市に宇都宮工場を設置
1981年2月	新潟県燕市に新潟工場を設置
1986年11月	北九州市に九州営業所を設置
1987年5月	神奈川県平塚市に総合技術研究所を設置
1988年3月	愛知県半田市に愛知工場を設置
1988年5月	米国・ヘンケル社と技術提携
1989年3月	滋賀県八日市市に関西工場を設置
1989年10月	(株)パーカーコーポレーションが(社)日本証券業協会の店頭市場に登録
1990年6月	岡山県倉敷市に関西SEセンターを設置
1991年2月	名古屋市に中京SEセンターを設置
1993年3月	栃木県宇都宮市に北関東SEセンターを設置
1996年4月	アイオニクス事業(粉体塗装機器の製造・販売)を秩父小野田(株)より買収
2002年6月	日本カニゼン(株)を買収
2004年11月	大阪証券取引所市場第一部の上場を廃止
2005年3月	(株)パーカーコーポレーションが東京証券取引所市場第二部に上場
2005年10月	パーカー加工(株)が京都パーカライジング(株)及び大阪パーカライジング(株)と合併
2007年4月	パーカー加工(株)が東海パーカライジング(株)と合併
2010年12月	インドに日本パーカライジングインディア(株)を設立
2013年6月	中国にパーカー表面処理技術(上海)を設立
2018年4月	日本パーカライジング(株)がパーカー興産(株)と合併
2018年9月	中国に日照パーカー表面処理を設立

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社49社及び関連会社10社で構成されております。

企業集団が営んでいる主な事業内容と、各社の当該事業に係る位置づけ及びセグメントとの関連は、次の通りであります。

なお、下記の事業は「その他」を除き、「第5 経理の状況 1連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

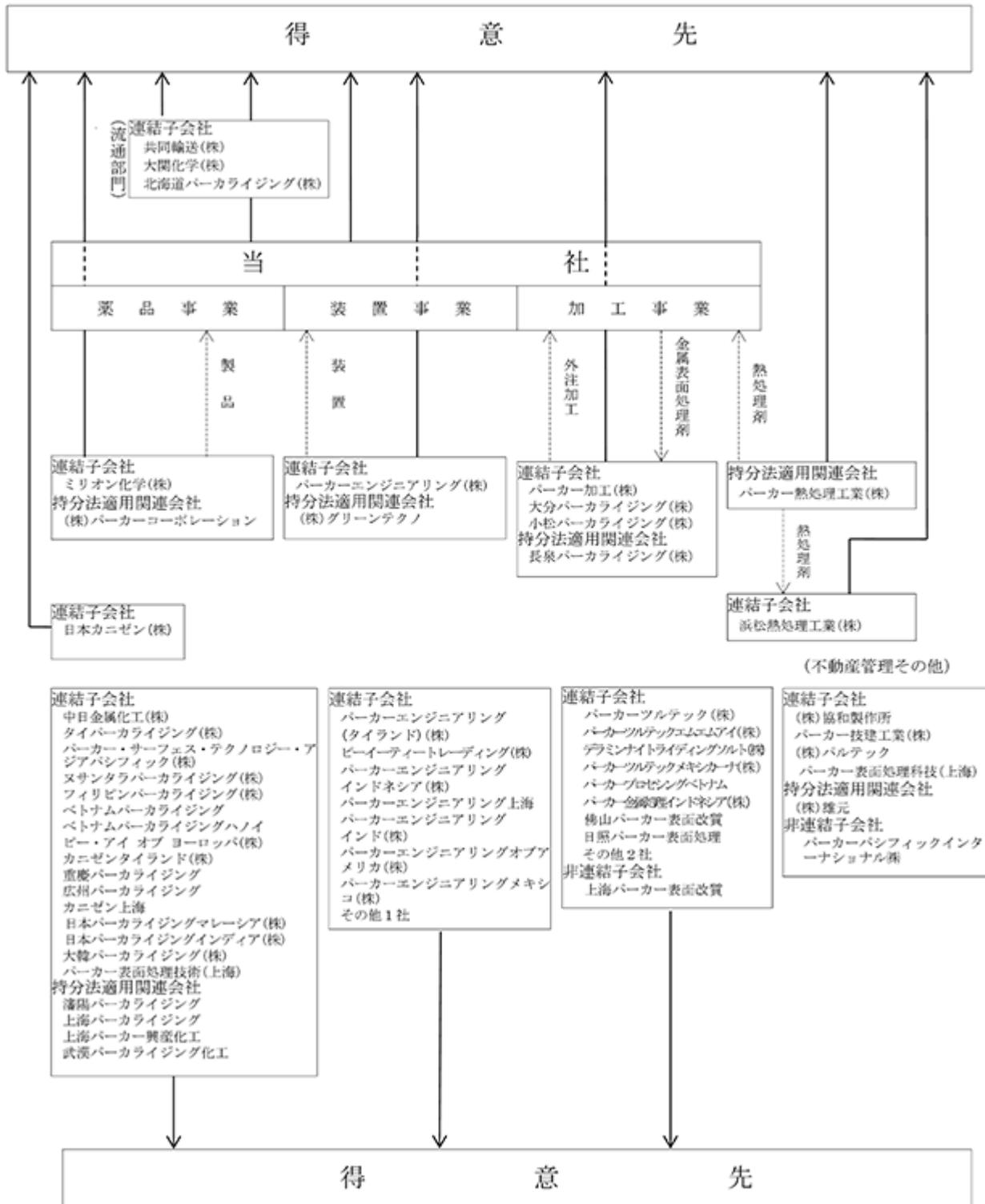
事業区分	主要な会社	
薬品事業	国内	当社、日本カニゼン(株)、ミリオン化学(株)、北海道パーカライジング(株) 大関化学(株)、(株)パーカーコーポレーション (計6社)
	海外	パーカーツルテック(株) ビー・アイ オブ ヨーロッパ(株) 広州パーカライジング、パーカー表面処理科技(上海) パーカー表面処理技術(上海)、重慶パーカライジング カニゼン上海、上海パーカライジング、瀋陽パーカライジング 武漢パーカライジング化工、上海パーカー興産化工 中日金属化工(株) 大韓パーカライジング(株) (計22社) ベトナムパーカライジング、ベトナムパーカライジングハノイ フィリピンパーカライジング(株) タイパーカライジング(株)、カニゼンタイランド(株) パーカー・サーフェス・テクノロジー・アジアパシフィック(株) 日本パーカライジングマレーシア(株) ヌサンタラパーカライジング(株) 日本パーカライジングインディア(株)
装置事業	国内	当社、パーカーエンジニアリング(株)、(株)グリーンテクノ (計3社)
	海外	パーカーエンジニアリング オブ アメリカ(株) パーカーエンジニアリングメキシコ(株) パーカーエンジニアリング上海 パーカーエンジニアリング(タイランド)(株) ピーイーティートレーディング(株) パーカーエンジニアリングインドネシア(株) パーカーエンジニアリングインド(株) その他1社 (計8社)
加工事業	国内	当社、日本カニゼン(株)、パーカー加工(株)、浜松熱処理工業(株) 大分パーカライジング(株)、北海道パーカライジング(株) 小松パーカライジング(株) パーカー熱処理工業(株)、長泉パーカライジング(株) (計9社)
	海外	パーカーツルテック(株)、パーカーツルテックエムエムアイ(株) デラミンナイトライディングソルト(株) パーカーツルテックメキシカーナ(株) 佛山パーカー表面改質、日照パーカー表面処理 中日金属化工(株) (計12社) パーカープロセッシング ベトナム タイパーカライジング(株) パーカー金属処理インドネシア(株) その他2社
その他	国内	当社、パーカー技建工業(株)、共同輸送(株)、(株)バルテック (株)協和製作所、(株)雄元 (計6社)
	海外	パーカー表面処理科技(上海) (計1社)

(注) 1 各事業区分の主要製品は、「第5 経理の状況 1連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報 1報告セグメントの概要」の通りであります。

2 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、ビルメンテナンス業、運送事業、太陽光発電事業、新規事業などを含んでおります。

3 各事業毎の会社数は、複数の事業を営んでいる場合にはそれぞれに含めて数えております。

当社グループの事業系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

国内連結子会社

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任	貸付金	営業上の 取引	設備の 賃貸借
パーカーエンジニアリング(株) *1	東京都中央区	494	装置事業	90.0	有	-	有	有
日本カニゼン(株)	東京都足立区	428	薬品事業 加工事業	100.0	有	-	有	有
パーカー加工(株)	東京都中央区	416	加工事業	71.9	有	-	有	有
浜松熱処理工業(株) *3	静岡県浜松市 南区	150	加工事業	45.0	有	-	有	-
大分パーカライジング(株)	東京都中央区	100	加工事業	100.0 (100.0)	有	-	有	-
パーカー技建工業(株)	東京都中央区	100	その他	100.0 (60.0)	有	-	有	有
ミリオン化学(株)	大阪府摂津市	80	薬品事業	87.3	有	-	有	有
北海道パーカライジング(株)	北海道札幌市 西区	60	薬品事業 加工事業	100.0	-	-	有	有
共同輸送(株)	神奈川県 平塚市	41	その他	57.3 (4.9)	有	-	有	有
(株)バルテック	東京都中央区	40	その他	100.0	有	-	有	有
(株)協和製作所	千葉県千葉市 稲毛区	12	その他	100.0 (100.0)	-	-	-	-
大関化学(株)	長野県上田市	10	薬品事業	100.0	-	-	有	-
小松パーカライジング(株)	石川県小松市	10	加工事業	100.0 (100.0)	-	-	有	-

海外連結子会社

名称	住所	資本金 又は出資金	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任	貸付金	営業上の 取引	設備の 賃貸借
パーカーツルテック(株) *1 (Parker Trutec Inc.)	米国	(百万US\$) 28	薬品事業 加工事業	100.0	有	有	有	-
パーカーツルテックエムエムアイ(株) (Parker Trutec MMI Inc.)	米国	(百万US\$) 3	加工事業	100.0 (100.0)	-	-	-	-
パーカーエンジニアリング オブ アメリカ(株) (Parker Engineering of America Co.,Ltd.)	米国	(百万US\$) 1	装置事業	100.0 (100.0)	-	-	-	-
パーカーツルテックメキシカーナ(株) *1 (Parker Trutec Mexicana S.A.de C.V.)	メキシコ	(百万MEX\$) 408	加工事業	79.3 (47.6)	有	有	有	-
パーカーエンジニアリングメキシコ(株) (Parker Eng.De Mexico S.A.de C.V.)	メキシコ	(百万MEX\$) 2	装置事業	100.0 (100.0)	-	-	-	-
デラミンナイトライディングソルト(株) (Delamin Nitriding Salts Limited)	イギリス	(百万GBP) 2	加工事業	100.0 (100.0)	-	-	-	-
ピー・アイ オブ ヨーロッパ(株) (P.I. of Europe,NV)	ベルギー	(百万EURO) 1	薬品事業	100.0	有	-	有	-
佛山パーカー表面改質 *1 (Foshan Parker Surface Modification Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 195	加工事業	54.0 (23.0)	有	-	有	-
日照パーカー表面処理 *1 (Rizhao Parker Surface Treatment Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 110	加工事業	100.0	有	有	-	-
パーカー表面処理技術(上海) *1 (Parker Surface Technologies Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 47	薬品事業	100.0	有	有	有	-

名称	住所	資本金 又は出資金	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任	貸付金	営業上の 取引	設備の 賃貸借
広州パーカライジング *1 (Guangzhou Parkerizing Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 43	薬品事業	95.0	有	-	有	-
重慶パーカライジング (Chongqing Parkerizing Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 21	薬品事業	55.0	有	-	-	-
パーカー表面処理科技(上海) (Parker Surface Technologies Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 16	薬品事業 その他	100.0	有	-	-	-
カニゼン上海 (Kanigen Shanghai Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 7	薬品事業	100.0 (100.0)	-	-	-	-
パーカーエンジニアリング上海 (Parker Engineering (Shanghai) Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 7	装置事業	100.0 (100.0)	有	-	-	-
日本パーカライジングインディア(株) *1 (Nihon Parkerizing(India) Private Limited)	インド	(百万RS) 712	薬品事業	100.0 (24.7)	有	有	有	-
パーカーエンジニアリングインド(株) (Parker Engineering (India) Limited)	インド	(百万RS) 30	装置事業	100.0 (100.0)	有	-	-	-
パーカー金属処理インドネシア(株) *1 (P.T.Parker Metal Treatment Indonesia)	インドネシア	(百万RP) 121,380	加工事業	65.3 (31.0)	有	-	有	-
ヌサンタラパーカライジング(株) (P.T.Nusantara Parkerizing)	インドネシア	(百万RP) 1,212	薬品事業	55.0	有	-	有	-
パーカーエンジニアリング インドネシア(株) (P.T.Parker Engineering Indonesia)	インドネシア	(百万RP) 470	装置事業	100.0 (100.0)	有	-	-	-
大韓パーカライジング(株) (Dae Han Parkerizing Co.,Ltd.)	韓国	(百万₩) 935	薬品事業	100.0	有	-	有	-
パーカー・サーフェス・テクノロジー・ アジアパシフィック(株) (Parker Surface Technology Asia Pacific Co., Ltd.)	タイ	(百万THB) 60	薬品事業	100.0	有	-	有	-
タイパーカライジング(株) *3 (Thai Parkerizing Co.,Ltd.)	タイ	(百万THB) 28	薬品事業 加工事業	49.0	有	-	有	-
パーカーエンジニアリング (タイランド)(株) (Parker Engineering (Thailand) Co.,Ltd.)	タイ	(百万THB) 12	装置事業	99.9 (99.9)	-	-	-	-
カニゼンタイランド(株) (Kanigen Thailand Co.,Ltd.)	タイ	(百万THB) 5	薬品事業	69.0 (69.0)	有	-	-	-
ピーイーティートレーディング(株) (PET Trading Co.,Ltd.)	タイ	(百万THB) 2	装置事業	99.9 (99.8)	-	-	-	-
中日金属化工(株) (Chung Jih Metal Treatment Chemicals, Inc.)	台湾	(百万NT\$) 84	薬品事業 加工事業	80.4 (21.9)	有	-	有	-
フィリピンパーカライジング(株) (Philippine Parkerizing Inc.)	フィリピン	(百万PHP) 52	薬品事業	51.0	有	-	有	-
パーカープロセッシングベトナム (Parker Processing Vietnam Co.,Ltd.)	ベトナム	(百万VND) 61,068	加工事業	100.0 (100.0)	-	-	-	-
ベトナムパーカライジング (Vietnam Parkerizing Co.,Ltd.)	ベトナム	(百万VND) 25,001	薬品事業	100.0	有	-	有	-
ベトナムパーカライジングハノイ (Vietnam Parkerizing Hanoi Co.,Ltd.)	ベトナム	(百万VND) 16,377	薬品事業	100.0	有	-	有	-
日本パーカライジングマレーシア(株) (Nihon Parkerizing Malaysia Sdn.Bhd)	マレーシア	(百万M\$) 15	薬品事業	100.0	有	-	有	-
その他2社								

国内持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任	貸付金	営業上の 取引	設備の 賃貸借
(株)パーカーコーポレーション *2	東京都中央区	2,201	薬品事業	24.9 (1.3)	-	-	有	有
パーカー熱処理工業(株)	東京都中央区	324	加工事業	36.4	有	-	有	有
(株)雄元	東京都中央区	100	その他	39.5 (9.5)	-	-	有	有
(株)グリーンテクノ	神奈川県 川崎市高津区	26	装置事業	41.7	-	-	-	-
長泉パーカライジング(株)	静岡県駿東郡	10	加工事業	30.0	-	-	有	-

海外持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 又は出資金	主要な 事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の 兼任	貸付金	営業上の 取引	設備の 賃貸借
上海パーカライジング (Shanghai Parkerizing Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 36	薬品事業	36.1	有	-	有	-
瀋陽パーカライジング (Shenyang Parkerizing Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 34	薬品事業	45.0	有	-	有	-
武漢パーカライジング化工 (Wu Han Parkerizing Chemical Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 17	薬品事業	35.0	有	-	有	-
上海パーカー興産化工 (Shanghai Parker Chemical Industries Co.,Ltd.)	中国	(百万RMB) 6	薬品事業	45.8	有	-	-	-
その他1社								

- (注) * 1 特定子会社に該当する会社であります。
* 2 有価証券報告書を提出している会社であります。
* 3 持分は100分の50以下であるが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。
4 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
5 重要な債務超過会社はありません。
6 売上高(連結会社間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えている連結子会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
薬品事業	1,602
装置事業	362
加工事業	2,018
その他	161
全社(共通)	242
合計	4,385

(注) 1 従業員数は、就業人員(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であります。

2 臨時従業員の総数は、従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
916	41.7	17.4	7,802,498

セグメントの名称	従業員数(名)
薬品事業	382
装置事業	9
加工事業	277
その他	6
全社(共通)	242
合計	916

(注) 1 従業員数は就業人員(当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。)であります。

2 平均年間給与は、賞与を含んでおります。

3 臨時従業員の総数は、従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループには「日本パーカライジング労働組合」の他計6団体が国内にあります。また、海外連結子会社の一部に組合が組織されております。労使関係について特に記載する事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の基本方針

当社グループは、「地球上に限りある資源の有効活用を図り、あらゆる素材の表面改質を通じて、資源の新しい価値を創造し、地球環境の保全と豊かな社会作りに貢献する」との企業理念の下、コーポレート・ガバナンスの充実、社会貢献にも積極的に取り組み、ステークホルダーの皆さまとより一層の発展を遂げていくと共に世界最高の表面改質技術の会社を目指します。また、「表面改質のスペシャリストとして真のグローバル・カンパニーを目指す！」を経営ビジョンに掲げ、長年培った表面処理技術をもって表面改質の分野で世界のリーダーとなるべく、グローバル、グループ、ガバナンスの3つのGを推進・強化する「3G経営の確立」を経営の基本方針としております。

(2) 目標とする経営指標

上記の経営方針のもと、第三次中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）では、最終年度である2022年3月期の目標として、以下を掲げております。

（2022年3月期 連結）

・売上高	1,335億円
・営業利益	190億円
・経常利益	220億円
・総資産経常利益率	8%以上
・自己資本利益率(ROE)	8%以上

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループを取り巻く事業環境は、主要な供給先であります自動車業界では、消費税増税後の国内自動車生産は減少傾向で推移するとともに、中国の生産台数も前年割れが続く等、厳しい状況で推移しております。もう一つの柱であります鉄鋼業界でも、海外メーカーとの競争激化により事業環境は厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社グループは2018年に創業90周年を迎えましたが、2020年3月期から2022年3月期までの3ヵ年を期間とする第三次中期経営計画を、創業100周年に向けて新たな成長を実現するために、経営基盤を強化する重要な期間と位置づけております。「グローバル競争に打ち勝つ成長戦略」、「グループ経営の最適化」、「ガバナンス改革」の推進を計画の基本方針とし、グローバル展開と新製品の開発及び新市場の開拓を推進し、更なる事業拡大と企業価値の向上に取り組んでまいります。

(4) 会社が対処すべき課題

新型コロナウイルス感染症の影響等による景気後退の長期化が懸念されるなか、足元では、利益の減少を最小限に抑えるべく、キャッシュ・アウト抑制と経費削減を強力に推進してまいります。また、中長期的には、グローバル競争の激化による価格低下、国内市場の成熟等による需要減少リスク等に対応するため、引き続き、グローバル展開の推進、将来を見据えた技術開発、既存事業の収益力強化に取り組んで行くことが必要と考えており、持続的成長の実現に向けて、以下の取り組みを継続してまいります。

グローバル競争に打ち勝つ成長戦略

当社グループのコア技術を用いた新製品の開発及び新市場の開拓を推進するために、研究開発投資及び海外需要を確実に取り込むための設備投資等を推進してまいります。また、海外事業を拡大するため、グローバル人材の育成と確保を積極的に推進してまいります。

グループ経営の最適化

既存事業の収益力強化のため、グローバルでの製造体制の見直し、間接部門の生産性向上、グループ共通インフラの整備等により、経営効率を高めてまいります。

ガバナンス改革

お客様及び社会から、より一層の信頼を得られる会社であるため、グループ・ガバナンスの強化に取り組んでまいります。また、継続的なコンプライアンス意識の醸成を図り、企業風土と意識改革に取り組んでまいります。

(5) コーポレート・ガバナンス強化による企業価値及び株主共同の利益向上に向けた取組み

当社では、上場会社として社会的な使命と責任を果たし、継続的な成長・発展を目指すためには、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であると考えております。

この考えに基づき、()取締役会による重要な意思決定と職務の監督、()グループ全般を視野においた経営管理体制による意思決定の迅速化、()監査等委員による取締役の職務執行の監査、()社長直轄の内部監査室による内部監査の実施、()化学メーカーとしての責任である製商品に関する安全性確保、品質保証、環境対応及び法令遵守を全社統合的に推進する組織の編成、()コンプライアンス委員会・リスク管理委員会の設置、リスク管理規程・子会社管理規程の整備等の施策を実行しております。

2 【事業等のリスク】

当社グループの財政状態、経営成績及び株価等に影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下のようなものではありません。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものでありません。

(1) 需要動向等

当社グループは、自動車、鉄鋼、金属・非鉄金属、建築・建材、電子部品等の様々な業界へ表面処理に関する製品及びサービスを提供しており、特定の取引先数社に集中することはありませんが、日本、アジア、欧米と様々な地域で事業活動を展開しており、各国・地域における景気低迷等及びそれに伴う需要の縮小は、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

薬品事業においては、主として日本及びアジアにおいて、様々な業界に金属表面処理薬剤を提供しておりますが、主に自動車・鉄鋼業界等の需要状況に影響を受けます。

装置事業においては、主として日本及びアジアにおいて、自動車生産及び一般産業向けに、前処理・塗装装置プラントの設計・販売等を行っておりますが、装置事業の売上は、顧客の設備投資需要に影響を受け、年度により、業績が大きく変動する可能性があります。

加工事業においては、日本及びアジア並びに北米において、防錆加工と熱処理加工を中心に行っておりますが、主に自動車、金属、機械業界等の需要状況に影響を受けます。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、国内外の顧客企業の生産調整や休業等による需要減少が見込まれるため、当社グループでは、利益の減少を最小限に抑えるべく、工場の一部について休業を実施する他、キャッシュ・アウト抑制と経費削減を強力に推進しております。しかしながら、感染症の拡大による景気後退の長期化により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

なお、貿易摩擦の激化や新型コロナウイルス感染症の拡大による世界的な景気下振れのリスクが高まる中、企業体質の強化を目指し、既存事業の収益力強化、新市場の開拓、新製品の開発等に努めております。

(2) 製品競争力の低下

当社グループの事業は、競合他社との差別化が重要なファクターであり、クロムフリー薬剤等の環境対応型薬剤の開発、様々な用途開発、顧客との共同研究等を推進し、差別化技術の開発及び将来を見据えた研究開発に取り組んでおります。

表面処理のスペシャリストとして、時代を先取りした迅速で柔軟な研究開発により、他社技術と差別化できる技術の開発、新規市場の開拓等を進めておりますが、新技術のトレンドや顧客ニーズの予測及び対応を誤り、競合他社が当社を上回る高品質で安価な製品又はサービスを実現した場合、収益性やシェアが低下し、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(3) 原材料の安定調達

当社グループは、表面処理薬剤メーカーとして、りん酸をはじめとする多くの原材料を国内及び海外から仕入れております。原材料を複数のサプライヤーから購入することにより安定調達を図り、生産に必要な原材料が十分に確保されるよう努めておりますが、特定の地域からの輸入に頼る原料をはじめ、高度な技術により合成された化合物等、供給元が限定されている原料もあります。

サプライヤーチェーンBCP対応の推進に取り組んでおりますが、サプライヤーの被災、事故、倒産等による原材料の供給中断、需要の急増による供給不足等、予期せぬ事象が発生した場合、製品の安定的な製造・販売体制に支障をきたし、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(4) 品質保証

当社グループは、ISO9001、IATF16949等認証取得を積極的に進める等、各拠点において、厳格な管理基準に従って製品製造及び受託加工等を行っております。

お客様に高品質な製品をタイムリーに提供できるように、要求された品質レベルを確保すべく、工程管理、監査、教育の強化等、未然防止活動の徹底を行っておりますが、全ての製品等について不良又は不具合等が発生しないという保証はありません。製造・輸送・保管等の過程における予期せぬトラブルによって、不良又は不具合等が発生した場合、顧客企業への補償や対策費用等の発生に加え、市場における信用の低下等により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(5) 安全衛生

当社グループは、製品の製造及びサービスを提供するに際して、その全てのプロセスに万全の安全衛生管理体制を構築することを目標としています。具体的には、労働安全衛生法をはじめとした関連法規制の遵守徹底とともに、企業としての安全配慮義務の履行と、それらに基づく安全衛生活動を実施しております。その活動事例としては、各事業場における巡視や関連法規制の順守状況の監査、計画的な安全衛生教育等があります。

しかしながら、万が一、重大な労働災害や設備事故等が発生した場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(6) 環境保全

当社グループは、表面処理薬剤の製造及び加工処理等サービス提供のプロセスにおいて、大気、水質、土壌等の汚染防止や有害物質、廃棄物の管理等、環境保全に関連する法規制は全てこれを遵守しております。また環境保全に関連するものとしてはISO14001（環境ISO）の認証維持及びその要求事項に沿った活動も推進しております。

ただし、不測の事態により事業活動に起因する環境汚染等が発生した場合には、そのことによる経済的な損失や社会的信用の失墜により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(7) 公的規制等

当社グループ及び当社グループの顧客企業が事業を行うにあたり、化学物質等の取り扱いにおける国内法規、製品や原料の輸出入に関わる国内外の法規、更にREACH規則、TSCA、RoHS規制等の化学物質に係る様々な海外の法規を遵守する必要があります。

事業の継続及び機会の確保のため、こうした法規に関する情報収集と対策を積極的に進めておりますが、これらの法令等の改正や強化がされた場合には、事業活動が制限される、あるいは事業機会を逸し、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(8) 知的財産

当社グループは、長年にわたって蓄積した技術を活用し、他社技術と差別化できる技術の開発と他社の知的財産権侵害の回避を行っておりますが、当社グループが独自に開発した技術の一部は、知的財産権による保護が不可能な場合又は限定的にしか保護されない場合があります。

当社グループは、保有する知的財産権の適切な保護及びノウハウ等の管理に努めていますが、当社グループの技術の模倣等によって第三者が類似した製品を製造することやコスト競争力のある製品を開発することを効果的に防止できない可能性があり、これらによって当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(9) 人材確保及び育成

当社グループは、日本、アジア、欧米と様々な国と地域で事業活動を行っており、将来の成長には、新製品の開発力を高めるための研究、技術及びノウハウの伝承、事業のグローバル展開が不可欠であり、これらに携わる人材の確保が重要な経営課題のひとつです。

「企業は人なり」の精神の下に、有能なエンジニアや将来の経営幹部等の確保と育成に力を入れております。また、多様な国籍の人材採用や経験者の通年採用を実施しております。しかしながら、人材獲得や育成が計画通りに進まなかった場合、当社グループの将来の成長に悪影響を与える可能性があります。

(10) 原材料価格の変動

当社グループは、りん酸他の金属塩類、無機物、有機物、その他用途別の様々な原材料を仕入れており、これらの原材料の仕入価格は、国際的情勢による需給バランス、為替レート、ロンドン金属取引所（LME：London Metal Exchange）の相場等の影響を受けて変動します。

原材料価格の上昇局面においては、原価低減策によるコスト引き下げと製品価格への転嫁等を図ることにより、適正な利益の確保に努めております。原材料の種類は非常に多く、商社等を経由した輸入も多いため、原材料価格の変動が業績に与える影響を画一的に予想することはできませんが、急激な原材料価格の高騰は、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(11) 事業投資等

当社グループは、「表面改質のスペシャリストとして真のグローバルカンパニーを目指す！」を経営ビジョンとして、持続的成長のために、グローバルに積極的な設備投資やM&Aを進めております。

重要な投資案件については、取締役会において、事業性を評価の上、決定するとともに、定期的に事業の進捗状況を確認し、必要に応じて、今後の方向性や業績改善の為の対策を検討していますが、想定外の市場環境の悪化等により、利益計画を大幅に下回った場合、設備投資により計上した有形固定資産やM&Aにより計上したのれん等の減損処理により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(12) 為替換算レートの変動

当社グループは、日本、アジア、欧米と様々な国と地域で事業活動を行っており、海外に多数の在外子会社を有しております。在外子会社は、原則として、その会社が属する国又は地域の通貨によって財務諸表を作成しており、連結財務諸表の作成過程において、資産及び負債は連結決算日の直物為替相場により円換算し、収益及び費用は期中平均相場により円換算されております。

在外子会社は、米ドル圏だけでなく、アジア各国等様々な通貨圏で事業活動を行っており、為替換算レートの変動による影響を画一的に予測することはできませんが、一般的には、円高の場合は、当社グループの業績に悪影響を及ぼし、円安の場合は好影響を及ぼします。

(13) 海外事業展開

当社グループは、海外市場での事業拡大を成長戦略の一つとしていますが、海外では、政治不安、貿易・外貨規制、法令・税制の変更、治安悪化、紛争テロ、戦争、宗教や文化の相違等、様々な政治的、経済的又は法的な制約を伴う可能性があります。

リスク管理の強化やカントリーリスクの情報収集等に努めておりますが、予期せぬ事象の発生等により、事業活動が制限を受けたり、法令等に適合するための費用が増加する等、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

(14) 自然災害・事故等

当社グループは、地震や台風等大規模な自然災害、火災等の事故、感染症によるパンデミックの発生時の安全確保と生産活動の中断による損害を最小限に抑えるため、定期的な製造設備の防災点検や防災訓練の他、事業継続計画（BCP）を策定して、早期に事業復旧できるように準備を行っております。

しかしながら、予期せぬ大規模な自然災害等が発生した場合には、人的、物的損害による事業活動の停止等により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を与える可能性があります。

新型コロナウイルス感染症への対応として、感染拡大防止対策本部を設置し、従業員及びその家族の安全確保と事業継続対策に努めております。感染拡大防止策として、マスクの着用、日常的な手洗い、咳エチケット等の衛生管理を徹底する他、在宅勤務、サテライトオフィス、時差通勤等を推進しておりますが、従業員等が感染した場合、一定期間、事業活動が停止となる可能性があります。また、原材料の安定調達及び在庫の確保に努めておりますが、感染症の拡大により、海外からの原材料の調達に支障をきたした場合、一部の製品等の供給が困難になる可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に当初は緩やかな回復基調にありましたが、期後半は米中貿易摩擦の長期化により製造業を中心に景気は悪化し、消費税率引き上げの影響も加わり、大変厳しい状況で推移いたしました。世界経済においても、中国経済の成長が鈍化した結果、各国経済も低水準で推移しております。また、期末にかけては新型コロナウイルスの感染拡大により、先行きは一段と不透明感が増しており、景気後退の長期化が懸念されます。

当社グループを取り巻く事業環境は、主要な供給先であります自動車業界では、増税後の国内自動車生産は減少傾向で推移するとともに、中国の生産台数も前年割れが続く等、厳しい状況で推移しております。もう一つの柱であります鉄鋼業界でも、海外メーカーとの競争激化により事業環境は厳しさを増しております。

このような状況のなか、当連結会計年度の連結業績は次のとおりとなりました。

売上高は1,190億28百万円（前年同期比7.9%減）となりました。事業の種類別セグメント毎の売上高は、前期に比べ薬品事業が5.9%、装置事業が19.7%、加工事業が1.8%、その他が10.5%の減収とすべての事業セグメントにおいて減収で推移しております。また、地域別セグメントは、国内が8.7%、アジアが11.0%の減収、欧米が19.0%の増収で推移しております。

営業利益は126億1百万円（前年同期比26.0%減）と売上減少に伴う減益に加え、加工事業において大型設備投資に関連した償却費が利益押し下げ要因となり、大幅な減益で推移いたしました。経常利益は157億23百万円（前年同期比21.9%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は94億49百万円（前年同期比17.3%減）となりました。

海外業績の換算による損益計算書に与える影響額は、売上高10億95百万円程度の減収、営業利益で44百万円程度の減益となっております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

薬品事業

外部顧客に対する売上高は448億54百万円（前年同期比5.9%減）となり、営業利益は75億46百万円（前年同期比12.1%減）となりました。当事業部門は、金属等の表面に耐食性、耐摩耗性、潤滑性等機能性向上を目的とする化成皮膜を施し、素材の付加価値を高める薬剤等を中心に製造・販売しております。国内の金属表面処理剤は、消費税増税や自然災害等の影響により顧客の自動車生産台数が減少したこともあり、減収で推移いたしました。また、海外需要も引き続き低調で、タイや中国をはじめアジア各国で減収となる等、薬品事業全体としては、減収減益で推移いたしました。

装置事業

外部顧客に対する売上高は244億97百万円（前年同期比19.7%減）となり、営業利益は5億95百万円（前年同期比47.1%減）となりました。当事業部門は、輸送機器業界を中心に前処理設備及び塗装設備や粉体塗装設備等を製造・販売しております。タイやインドネシアで受注が増加した一方、前期、国内及び中国において大型の設備物件の売上計上があった影響もあり、減収で推移いたしました。利益面では中国における受注環境の厳しさから利益率は低下し、装置事業全体としては、減収減益で推移いたしました。

加工事業

外部顧客に対する売上高は451億99百万円（前年同期比1.8%減）となり、営業利益は73億23百万円（前年同期比12.3%減）となりました。当事業部門は、熱処理加工、防錆加工、めっき処理等の表面処理の加工サービスを提供しております。国内外の加工処理需要は自動車部品、建機油圧向けともに低調であったことから減収で推移いたしました。利益面では米国、タイの不振や、大型設備投資に関連した償却費が利益押し下げ要因となり、加工事業全体としては減収減益で推移いたしました。

その他

外部顧客に対する売上高は44億77百万円（前年同期比10.5%減）となり、営業利益は11億23百万円の赤字（前年同期は2億37百万円の黒字）となりました。当事業部門は、ビルメンテナンス事業、運送事業、太陽光発電事業、新規事業等を営んでおります。韓国向けの商品販売において、韓国経済の低迷により取引先の経営環境が悪化し、債権回収に懸念が生じたことにより引当金を計上したため、減収減益で推移いたしました。

当社グループでは、2020年3月期から2022年3月期の3ヵ年を期間とする第三次中期経営計画を、当連結会計年度よりスタートいたしました。第三次中期経営計画では、「グローバル競争に打ち勝つ成長戦略」、「グループ経営の最適化」、「ガバナンス改革」の推進を基本方針とし、最終年度である2022年3月期の目標として、売上高1,335億円、営業利益190億円、経常利益220億円、総資産経常利益率8%以上、自己資本利益率(ROE)8%以上を設定しております。当社グループを取り巻く事業環境は、自動車産業の海外シフト、グローバル競争の激化等によって厳しさを増しており、目標の達成と持続的成長を実現するために、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載しております課題に対処していくことが必要であると認識しております。

第三次中期経営計画の初年度である2020年3月期は、米中通商問題に端を発した中国経済の減速、更には、年度終盤における新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により、全てのセグメントにおいて、対前期比で減収減益となり、総資産経常利益率は7.2%と前期に比べて2.0ポイント減少、自己資本利益率(ROE)は6.7%と前期に比べて1.5ポイント減少と、いずれも目標水準を下回る結果となりました。

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症による景気後退が懸念される等、先行きが不透明な状況にありますが、企業体質の強化と持続的な企業価値向上に、継続的に取り組んでまいります。なお、当社グループの経営成績等に重要な影響を与える要因は、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しております。

生産、受注及び販売の状況は次のとおりであります。

当社グループは主として販売計画に基づいた見込生産及び短納期での受注生産によっております。そのため、生産実績及び受注実績は販売実績と重要な相違がないため記載を省略しております。

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
薬品事業	44,854	5.9
装置事業	24,497	19.7
加工事業	45,199	1.8
報告セグメント 計	114,551	7.8
その他	4,477	10.5
合計	119,028	7.9

- (注) 1 金額には消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 財政状態

(資産の部)

資産合計は、前連結会計年度末と比較し20億44百万円減少し2,167億73百万円となりました。主な増減といたしましては、流動資産では現金及び預金が49億21百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が41億63百万円減少いたしました。固定資産では有形固定資産が15億円増加した一方で、投資有価証券の時価の減少等により投資その他の資産が30億73百万円減少いたしました。

(負債の部)

負債合計は、前連結会計年度末と比較し62億32百万円減少し458億26百万円となりました。主な増減といたしましては、流動負債では支払手形及び買掛金が40億83百万円、固定負債では繰延税金負債が13億36百万円減少いたしました。

(純資産の部)

非支配株主持分を含めた純資産合計は、前連結会計年度末と比較し41億88百万円増加し1,709億47百万円となりました。主な増減といたしましては、利益剰余金が68億円、非支配株主持分が14億11百万円、自己株式が18億20百万円増加した一方で、その他有価証券評価差額金が21億74百万円減少いたしました。

以上の結果、自己資本比率は66.1%と前連結会計年度末と比較し1.9ポイント増加するとともに、1株当たり純資産は1,203円34銭と35円88銭増加いたしました。

セグメントごとの資産は、次のとおりであります。

薬品事業

総資産合計は前連結会計年度末に比べ28億59百万円減少し543億52百万円となりました。流動資産は5億74百万円減少し390億70百万円となりました。有形固定資産は7億21百万円増加し144億7百万円となりました。無形固定資産は1百万円増加し5億31百万円となりました。投資その他の資産は30億7百万円減少し3億42百万円となりました。

装置事業

総資産合計は前連結会計年度末に比べ16億86百万円減少し197億13百万円となりました。流動資産は18億42百万円減少し177億66百万円となりました。有形固定資産は1億84百万円増加し9億57百万円となりました。無形固定資産は6百万円増加し26百万円となりました。投資その他の資産は35百万円減少し9億63百万円となりました。

加工事業

総資産合計は前連結会計年度末に比べ10億1百万円減少し773億56百万円となりました。流動資産は3億3百万円減少し370億7百万円となりました。有形固定資産は11億円増加し336億13百万円となりました。無形固定資産は1億98百万円増加し17億36百万円となりました。投資その他の資産は19億95百万円減少し49億99百万円となりました。

その他

総資産合計は前連結会計年度末に比べ2億44百万円増加し42億91百万円となりました。流動資産は2億95百万円増加し28億53百万円となりました。有形固定資産は20百万円減少し10億6百万円となりました。無形固定資産は2百万円減少し7百万円となりました。投資その他の資産は27百万円減少し4億24百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物は、期首と比較し27億81百万円増加し、565億7百万円となりました。なお、当連結会計年度では、現金及び現金同等物に係る換算差額により1億9百万円増加しております。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と増減の要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

前期同期に比べ2億22百万円収入が増加し175億14百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益155億60百万円、減価償却費65億16百万円、売上債権の減少額40億56百万円、仕入債務の減少額39億92百万円、法人税等の支払額51億3百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

前期同期に比べ15億66百万円支出が減少し87億32百万円の支出となりました。主な支出は、有形固定資産の取得による支出91億71百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

前期同期に比べ4億46百万円支出が増加し61億9百万円の支出となりました。主な支出は、配当金の支払額27億4百万円、自己株式の取得による支出18億24百万円であります。

(キャッシュ・フロー関連指標)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
自己資本比率	64.2%	66.1%
時価ベースの自己資本比率	76.0%	61.5%
キャッシュ・フロー対有利子負債比率	14.4%	10.6%
インタレスト・カバレッジ・レシオ	241.8倍	452.0倍

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、以下のとおりであります。

主な資金需要は、製品製造のための材料・部品等の購入費、製造費用、加工処理費用、商品の仕入、販売費及び一般管理費、法人税等の支払、配当金の支払、運転資金及び設備投資資金等であります。

当連結会計年度は、有形固定資産の取得で91億71百万円、法人税等の支払額で51億3百万円、配当金の支払で27億4百万円等の資金需要がありました。また、現金及び預金同等物の期末残高は、期首に比べ27億81百万円増加いたしました。有利子負債は当連結会計年度は6億42百万円減少しております。

基本的に運転資金については、期限が一年以内の短期借入金で、通常各々の会社で運転資金として使用する現地の通貨で調達しております。設備投資資金については、原則として自己資金を利用しておりますが、一部では借入金によるものがあります。

(4) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しております。その適用においては、過去の実績等を勘案して将来の見積りを計上することが必要とされる場合があります。特に連結財務諸表に重要な影響を与える見積りを必要とする項目は以下のとおりであります。

なお、新型コロナウイルス感染症の仮定に関する情報は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（追加情報）」に記載しております。

完成工事高

完成工事高の計上は工事完了まで一定期間を要し、かつ成果の確実性が認められる工事については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。工事進行基準対象工事につきましては将来の発生原価を合理的に見積っておりますが、経済状況の変動・原材料価格の変動等の要因によりその見積り額が変動した場合は工事損益に影響を及ぼす可能性があります。

貸倒引当金

売掛金、貸付金その他これらに準ずる債権を適正に評価するため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。将来、債権の相手先の財政状態が悪化して支払能力が低下した場合には、引当金の追加計上又は貸倒損失が発生する可能性があります。

有形固定資産

償却資産に関しては、一般に公正妥当と認められる減価償却方法に基づき実施しております。また、固定資産の減損に係る会計基準に従い、減損損失の認識と測定を実施しておりますが、資産の市場価格の見積りや将来キャッシュ・フローの見積りは、合理的な仮定や予測に基づいて算出するため、当社グループによる見積りより悪化した場合、減損損失の追加計上が必要となる可能性があります。

投資有価証券

当社グループは金融機関及び販売、仕入に係る取引先等の株式を保有しております。これらの株式には価格変動性が高い公開会社の株式と、株価の決定が困難である非公開会社の株式が含まれます。当社グループは、投資価値の下落が一時的ではないと判断した場合、合理的な基準に基づいて投資有価証券の減損損失を計上しております。なお、将来の市況悪化や投資先の業績不振等、現在の簿価に反映されていない損失又は簿価の回収が不能となる状況が発生した場合、減損損失の追加計上が必要となる可能性があります。

退職給付に係る負債

従業員の退職給付費用及び退職給付債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されています。これらの前提条件には、割引率、期待収益率、将来の給与水準、退職率、直近の統計数値に基づいて算出される死亡率等が含まれます。当社及び一部の連結子会社が加入する年金制度においては、割引率は安全性の高い長期債券をもとに算出しています。期待収益率は、保有している年金資産のポートフォリオ、過去の運用実績、運用方針及び市場の動向等を勘案し計算されます。実際の結果が前提条件と異なる場合には、将来の費用及び計上される債務に影響を及ぼします。

4 【経営上の重要な契約等】

(1) 技術導入契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約内容	ロイヤルティ	契約期間
日本パーカライジング株式会社 (提出会社)	トランター社 (Tranter Inc.)	米国	板状熱交換器(プレートコイル)の製造・販売実施権	正味販売価額の一定率	2017年7月1日より2020年6月30日まで
日本パーカライジング株式会社 (提出会社)	ヘンケル社 (Henkel AG & Co, KGaA)	ドイツ	金属表面処理に関する技術供与と製造・販売に係わる実施権	同上	2015年7月1日より2020年6月30日まで
日本パーカライジング株式会社 (提出会社)	ドーバートケミカル社 (Daubert Chemical Company Inc.)	米国	防錆油の製造・販売権	同上	1984年12月より10年間以後1年毎自動延長

(2) 代理店契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約内容	契約期間
日本パーカライジング株式会社 (提出会社)	ヘンケル社 (Henkel AG & Co, KGaA)	ドイツ	日本国内における自動車産業向け洗浄剤、潤滑剤及び表面処理分野のヘンケル製品の販売	2015年7月1日より2020年6月30日まで

(3) 資本・業務提携

提携会社名	相手先の名称	相手先の所在地	提携内容
パーカーエンジニアリング株式会社 (連結子会社)	デュールシステムズ社 (Dürr Systems AG)	ドイツ	資本提携の内容 パーカーエンジニアリング株式会社に対するデュールシステムズ社の出資 業務提携の内容 塗装設備技術に関する相互供与

5 【研究開発活動】

当社グループは技術立社として、「金属及びその他素材の表面改質分野において、技術的優位性を堅持し世界のリーダーとなる」ことを基本方針に掲げ、国内外関係会社の技術開発部門が連携し、先進性と獨創性に秀でる表面処理技術の開発を進め、その地位を確固たるものにするために日々努力しております。

当社グループの事業領域は、表面処理薬剤の製造販売を中心とする薬品事業領域、防錆加工及び熱処理加工を行う加工事業領域の2つに大別されます。これら事業領域を網羅した基礎的な研究開発については総合技術研究所を中心として推進されており、同所が技術開発の発信拠点となっております。一方、東日本・西日本の各地域の技術センターや加工技術センターは、顧客により近い立場での応用開発を行っております。市場ニーズの急激な変化へ対応するために、シーズ開発から製品開発までを一貫して行うと共に、国内から海外までの製品展開を視野に入れた、迅速で柔軟な研究開発体制を構築しております。また、自社の持つコア技術を軸とした新技術創生活動にも力を入れております。更に製品の製造に関しては、多様化する製品群に対し安定した品質を保証できる製造技術の開発を製造技術センターにおいて推進しております。

主な研究開発の概要及び成果は、以下のとおりです。

薬品事業領域では、従来から対象として来た鉄鋼材料・自動車車体・塑性加工パーツ・非鉄材料といった主な分野で、性能とコストを両立させ、更に環境に配慮した新しい表面処理技術・材料の開発を積極的に進めております。自動車車体の塗装下地分野では、りん酸亜鉛処理に替わる環境負荷の少ない新規化成処理の市場拡大がより進み、次世代に向けた応用開発も同時並行で進めてきました。同じくりん酸亜鉛処理に頼っていた塑性加工用潤滑処理についても、環境対応型の一液型潤滑処理の市場が海外展開を含めて進んでおります。非鉄材料分野では、エアコン用熱交換器に対して新たな機能を付与した皮膜処理剤の開発を進め、家電用エアコンへの市場化を目指しています。また、コア技術を応用して絶縁、断熱、撥水、抗菌といった新たな機能を有する皮膜処理技術を開発することにより、電子部品、日用品、医療機器と言った新規市場分野に対する用途開発を積極的に進めております。

装置事業領域では、生産品質向上や設備の予防保全を目的とした、IoT設備管理システムの実ライン導入を開始しました。今後、マテリアル・ハンドリングと搬送装置を組み合わせた設備オートメーション化に取り組んでまいります。また、自動車塗装分野では、従来からの水による塗料ミスト集塵方式から、環境に配慮した乾式への移行に対応するため、高性能な折畳み式のフィルターの製作及び専用の装置開発に着手しています。

加工事業領域では、防錆加工分野では耐食性、接着性、意匠性等の様々な要求に対応する化成処理や、めっき処理技術等の開発を行っております。熱処理分野においては塩浴軟室化処理“イソナイトLS”の開発及び生産技術的研究を行い事業化につなげました。また、軟室化と高周波焼入れの複合熱処理等の検討も行っており、その応用技術の実用化を推進しております。

当連結会計年度では、総研究開発費として2,220百万円を投入いたしました。なお、セグメントに関連付けての記載は困難であるため省略しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、市場ニーズに対応するための既存設備の更新、薬品の品質向上及び製造能力の増強、加工処理能力の増強、研究開発用資産の充実を継続的に進めており、当連結会計年度におきましては、グループ全体で8,974百万円の設備投資を実施いたしました。

セグメント別の設備投資の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	薬品事業	装置事業	加工事業	計		
設備投資額	2,826	239	5,518	8,583	390	8,974

(注) 1 有形固定資産及び無形固定資産への投資が含まれております。

2 金額には、消費税等は含まれておりません。

3 設備投資資金は、主に自己資金を充当しております。

4 セグメントに含まれない投資は、「その他」に含まれております。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	リース資産	合計	
平塚第一工場 (神奈川県平塚市)	薬品事業	金属表面処理剤 等の生産設備	255	87	551 (15)	7	0	902	33
関西工場 (滋賀県東近江市)	"	"	479	419	325 (39)	47	-	1,271	43
愛知工場 (愛知県半田市)	加工事業	防錆加工処理設 備	375	227	659 (23)	1	-	1,264	19
平塚第二工場 (神奈川県平塚市)	"	防錆・熱処理加 工処理設備	251	653	1,173 (28)	13	-	2,092	46
西日本事業部 (大阪府吹田市)	薬品事業	薬品等の販売設 備	193	2	169 (1)	86	4	456	96
総合技術研究所 (神奈川県平塚市)	全社	研究開発設備	369	12	161 (13)	254	-	798	112
本社及びその他(注2)	"	その他設備	5,185	510	5,043 (152)	148	33	10,922	265

(2) 国内子会社

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	リース資産	合計	
パーカーエンジニア リング(株)	東京都 中央区	装置事業	装置の生産設 備等	872	93	207 (4)	24	90	1,288	110
パーカー加工(株)	東京都 中央区	加工事業	防錆加工処理 設備等	735	228	2,209 (85)	41	14	3,229	217
浜松熱処理工業(株)	静岡県 浜松市	"	熱処理加工処 理設備等	887	1,321	1,666 (49)	33	-	3,909	80
日本カニゼン(株)	東京都 足立区	薬品事業 加工事業	めっき液生産 設備等	592	177	579 (57)	109	5	1,463	116

(3) 在外子会社

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	工具器具 備品	リース資産	合計	
パーカーツル テック㈱	米国	加工事業	熱処理加工 処理設備等	1,355	2,033	30 (167)	10	-	3,429	180
パーカーツル テックメキシ カーナ㈱	メキシコ	"	"	1,061	1,242	209 (78)	12	-	2,525	123
タイパーカライ ジング㈱	タイ	薬品事業 加工事業	金属表面処 理剤等の生 産設備等	3,639	3,251	968 (197)	157	-	8,015	761
大韓パーカライ ジング㈱	韓国	薬品事業	"	1,146	445	179 (22)	13	-	1,784	61
パーカー金属処 理インドネシア ㈱(注3)	インドネシア	加工事業	熱処理加工 設備等	509	519	- [40]	47	313	1,389	144
佛山パーカー表 面改質	中国	"	"	266	2,292	-	8	-	2,566	226

(注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定、消費税等は含まれておりません。

2 賃貸中の土地1,858百万円(36千㎡)、建物及び構築物等1,448百万円が含まれております。

3 土地を賃借しており、賃借している土地の面積については、〔 〕で外書しております。

4 生産能力に重要な影響を及ぼす休止資産はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	132,604,524	132,604,524	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 (単元株式数 100株)
計	132,604,524	132,604,524		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2015年4月1日 (注)	66,302,262	132,604,524		4,560		3,912

(注) 増減数は、株式分割(1:2)による増加であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		44	26	80	168	2	2,825	3,145	
所有株式数(単元)		501,735	3,204	290,044	319,491	2	211,144	1,325,620	42,524
所有株式数の割合(%)		37.85	0.24	21.88	24.10	0.00	15.93	100.00	

(注) 自己株式10,991,557株は、「個人その他」に10,991,500株(109,915単元)、「単元未満株式の状況」に57株それぞれ含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
ノーザン トラスト カンパニー (AVFC) リ フィデリティ ファンズ (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11 1)	8,783	7.22
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目6 6 (東京都港区浜松町二丁目11 3)	7,015	5.76
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11 3	5,605	4.60
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内二丁目1 1 (東京都中央区晴海一丁目8 12)	5,578	4.58
株式会社千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1 2	4,765	3.91
株式会社雄元	東京都中央区日本橋二丁目16 8	4,708	3.87
公益財団法人里見奨学会	東京都中央区日本橋二丁目16 8	4,633	3.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8 11	4,108	3.37
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1 2	3,113	2.56
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 日本製鉄退職金口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8 12	2,664	2.19
計		50,976	41.91

(注) 1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、信託業務に係る株式数であります。

2 株式会社雄元が所有している株式については、会社法施行規則第67条の規定により議決権を有していません。

3 上記のほか当社所有の自己株式10,991千株があります。なお、当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)(以下「信託E口」という)が当社株式176千株を保有しておりますが、信託E口が所有する当社株式については、自己株式に含めておりません。

- 4 2019年11月8日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、フィデリティ投信株式会社が2019年10月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
フィデリティ投信株式会社	東京都港区六本木七丁目7-7	10,214	7.70

- 5 2019年11月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、株式会社みずほ銀行が2019年11月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5-5	3,427	2.58

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 10,991,500		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 5,536,700		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 116,033,800	1,160,338	同上
単元未満株式	普通株式 42,524		同上
発行済株式総数	132,604,524		
総株主の議決権		1,160,338	

(注) 1 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式及び相互保有株式が次のとおり含まれております。

自己保有株式		57 株
相互保有株式	(株)雄元 パーカー熱処理工業(株)	98 26

- 2 「完全議決権株式(その他)」の普通株式数には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する株式176,700株(議決権の数1,767個)が含まれております。

【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本パーカライジング 株式会社	東京都中央区 日本橋一丁目15 1	10,991,500		10,991,500	8.28
(相互保有株式) 株式会社雄元	東京都中央区 日本橋二丁目16 8	4,708,900		4,708,900	3.55
(相互保有株式) パーカー熱処理工業 株式会社	東京都中央区 日本橋二丁目16 8	817,300		817,300	0.61
(相互保有株式) 長泉パーカライジング 株式会社	静岡県駿東郡長泉町 下長窪1088	10,500		10,500	0.00
計		16,528,200		16,528,200	12.46

(注) 「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する株式176,700株については、上記の自己株式等に含まれておりません。

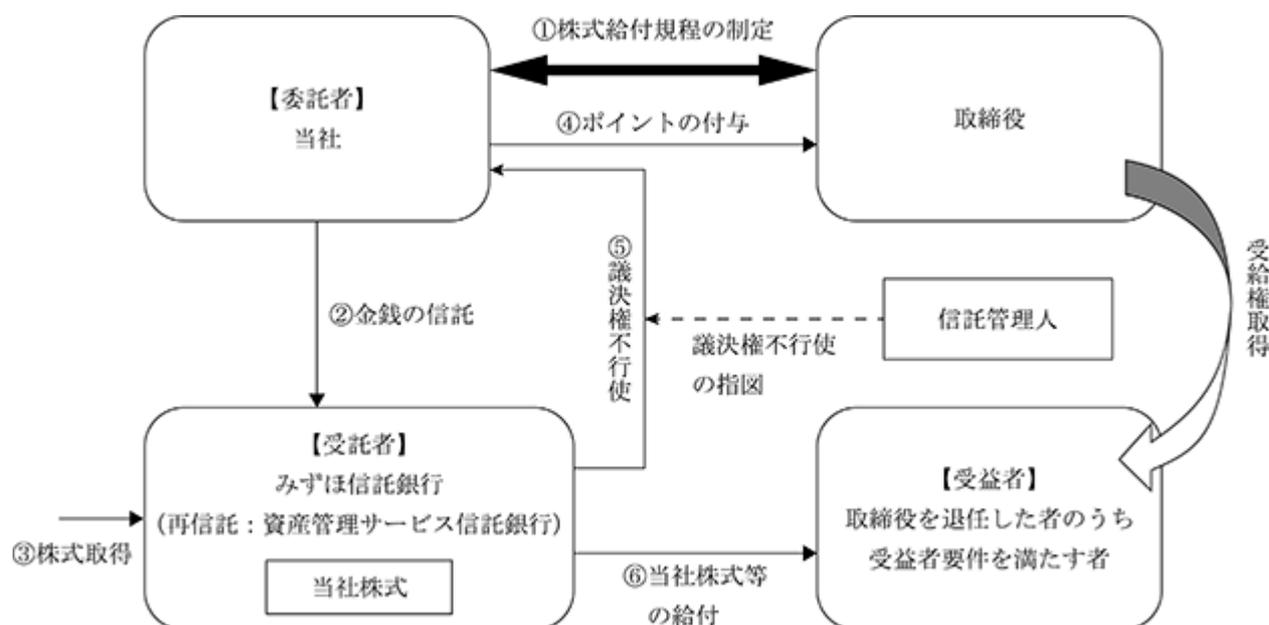
(8)【役員・従業員株式所有制度の内容】

「業績連動型株式報酬制度」

当社は、2016年5月16日開催の取締役会において、取締役の報酬制度の見直しを行い、取締役（監査等委員であるものを除きます。）（以下、「取締役」といいます。）に対する退職慰労金制度を廃止すること及び当社の取締役（社外取締役を除きます。）に対する信託を用いた新たな業績連動型株式報酬制度（以下、「本制度」といいます。）を導入することを決議いたしました。

1 本制度の概要

本制度は、当社が拠出する金銭を原資として当社株式が信託を通じて取得され、取締役に対して、取締役会が定める株式給付規程に従って、当社株式及び当社株式を時価で換算した金額相当の金銭（以下、「当社株式等」といいます。）が信託を通じて給付される業績連動型の株式報酬制度であり、取締役が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時といたします。



当社は、株主総会において、本制度について取締役の報酬の決議を得て、株主総会で承認を受けた枠組みの範囲内において、「株式給付規程」を制定いたしました。

当社は、の株主総会決議で承認を受けた範囲内で金銭を信託いたします（以下、かかる金銭信託により設定される信託を、「本信託」といいます。）。

本信託は、で信託された金銭を原資として、当社株式を、株式市場を通じて又は当社の自己株式処分を引き受ける方法により取得しております。

当社は、「株式給付規程」に基づき取締役にポイントを付与いたします。

本信託は、当社から独立した信託管理人の指図に従い、本信託勘定内の当社株式にかかる議決権を行使しないことといたします。

本信託は、取締役を退任した者のうち株式給付規程に定める受益者要件を満たした者（以下、「受益者」といいます。）に対して、当該受益者に付与されたポイント数に応じた当社株式を給付いたします。ただし、取締役が株式給付規程に定める要件を満たす場合には、ポイントの一定割合について、当社株式の給付に代えて、当社株式の時価相当の金銭を給付いたします。

2 本制度の内容

- (1) 名称：株式給付信託（BBT）
- (2) 委託者：当社
- (3) 受託者：みずほ信託銀行株式会社（再信託受託者：資産管理サービス信託銀行株式会社）
- (4) 受益者：取締役を退任した者のうち株式給付規程に定める受益者要件を満たす者
- (5) 信託管理人：当社と利害関係のない第三者を選定
- (6) 信託の種類：金銭信託以外の金銭の信託（他益信託）
- (7) 本信託契約の締結日：2016年8月25日
- (8) 金銭を信託する日：2016年8月25日
- (9) 信託の期間：2016年8月25日から信託が終了するまで
（特定の終了期日は定めず、本制度が継続する限り信託は継続します。）
- (10) 取得する株式の種類：当社普通株式

3 役員等に取得させる予定の株式の総数または総額

2016年8月25日付で、239,878千円を拠出し、すでに資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が196,300株、239,878千円取得しております。

4 当会従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

取締役を退任した者のうち役員株式給付規定に定める受益者要件を満たす者

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(2019年11月8日)での決議状況 (取得期間2019年11月11日)	800,000	1,024
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	800,000	1,024
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(2020年2月7日)での決議状況 (取得期間2020年2月10日)	500,000	592
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	500,000	592
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(2020年3月23日)での決議状況 (取得期間2020年4月1日～2020年9月30日)	1,600,000	1,500
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存決議株式の総数及び価額の総額	1,600,000	1,500
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	535,500	592
提出日現在の未行使割合(%)	66.5	60.5

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	234	283
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 (単元未満株式の買増請求による売渡)				
保有自己株式数	10,991,557		11,527,057	

(注) 1 当事業年度及び当期間の保有自己株式数には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式は含まれておりません。

2 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと考え、業績動向、配当性向ならびに将来の事業展開に必要な内部留保の水準等を総合的に勘案し、利益配分を決定しております。

配当につきましては、連結配当性向25%を目処に、将来の事業展開及び収益水準を勘案しつつ、安定した配当を継続的に実施することで、株主の皆様のご期待に添うべく努力してまいりたいと考えております。

当社は中間配当を行うことができる旨を定めており、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。なお、会社法施行により配当の回数制限がなくなりましたが、当社は従来通り、中間期末日及び期末日を基準として年2回の配当を継続する方針であります。

上記の基本方針のもと、当事業年度の1株当たり配当金につきましては、中間配当金11円、期末普通配当金13円と年間配当金24円といたしました。

次期につきましては、業績見通しが見つからないことから未定としております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年11月8日 取締役会決議	1,352	11.00
2020年6月26日 定時株主総会決議	1,580	13.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「地球上に限りある資源の有効活用を図り、あらゆる素材の表面改質を通じて、資源の新しい価値を創造し、地球環境の保全と豊かな社会作りに貢献する」という企業理念のもと、社会的使命と責任を果たし、継続的な成長・発展を目指すためには、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であると考えております。

当社では、昨年度に策定した第三次中期経営計画の重点施策の一つとして「ガバナンス改革」を掲げ、コーポレートガバナンス・コードに則した経営管理体制の構築に取り組んでおります。具体的な取り組みとしては、経営の意思決定及び監督機能と業務執行機能を分離するために、執行役員制度を導入し、意思決定の迅速化・経営の効率化を図るとともに、取締役の約半数を社外取締役とし、取締役会の更なる実効性向上に努めております。また、グループ経営を重視し、グループ各社の経営体制を強化するとともに、ガバナンスの更なる強化を図っております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、取締役会の監査・監督機能を高めることにより、コーポレート・ガバナンスの強化及び企業価値の向上を図るため、監査等委員会設置会社を採用しております。

また、経営の意思決定及び監督機能と業務執行機能を分離することで、意思決定の迅速化・経営の効率化とともに、業務執行責任の明確化を図ることを目的に、執行役員制度を導入しております。

< 取締役会 >

取締役会は、取締役9名（うち社外取締役4名）で構成され、原則として毎月1回開催しております。

議長は代表取締役会長（里見多一）が務め、グループを含めた長期的な企業価値の向上を図るため、定款及び取締役会規程に定められた重要事項の審議及び経営の意思決定を行うとともに、取締役・執行役員の業務執行状況の監督等を行っております。

< 監査等委員会 >

監査等委員会は、常勤監査等委員である取締役1名及び社外取締役2名の計3名で構成され、議長は監査等委員の細金逸人が務め、原則として毎月1回開催しております。監査等委員である取締役は、取締役会に出席し、適宜意見の表明を行うほか、重要な書類の閲覧、事業所への往査、子会社の調査等を通じた監査を行っております。また、会計事項については、会計監査人から監査等委員会へ定期的に報告が行われます。なお、内部統制システムの監査機能の一層の強化を図るため、内部監査室長を監査等委員会の補助使用人として選任しております。

< 執行役員会 >

執行役員会は、執行役員9名で構成され、原則として毎月1回開催いたします。議長は社長執行役員（松本満）が務め、取締役会の決定した基本方針に基づき、重要な執行方針等を協議・決議するとともに、取締役会へ上程すべき経営事項を事前協議し、必要に応じ報告することを目的としております。

<内部監査>

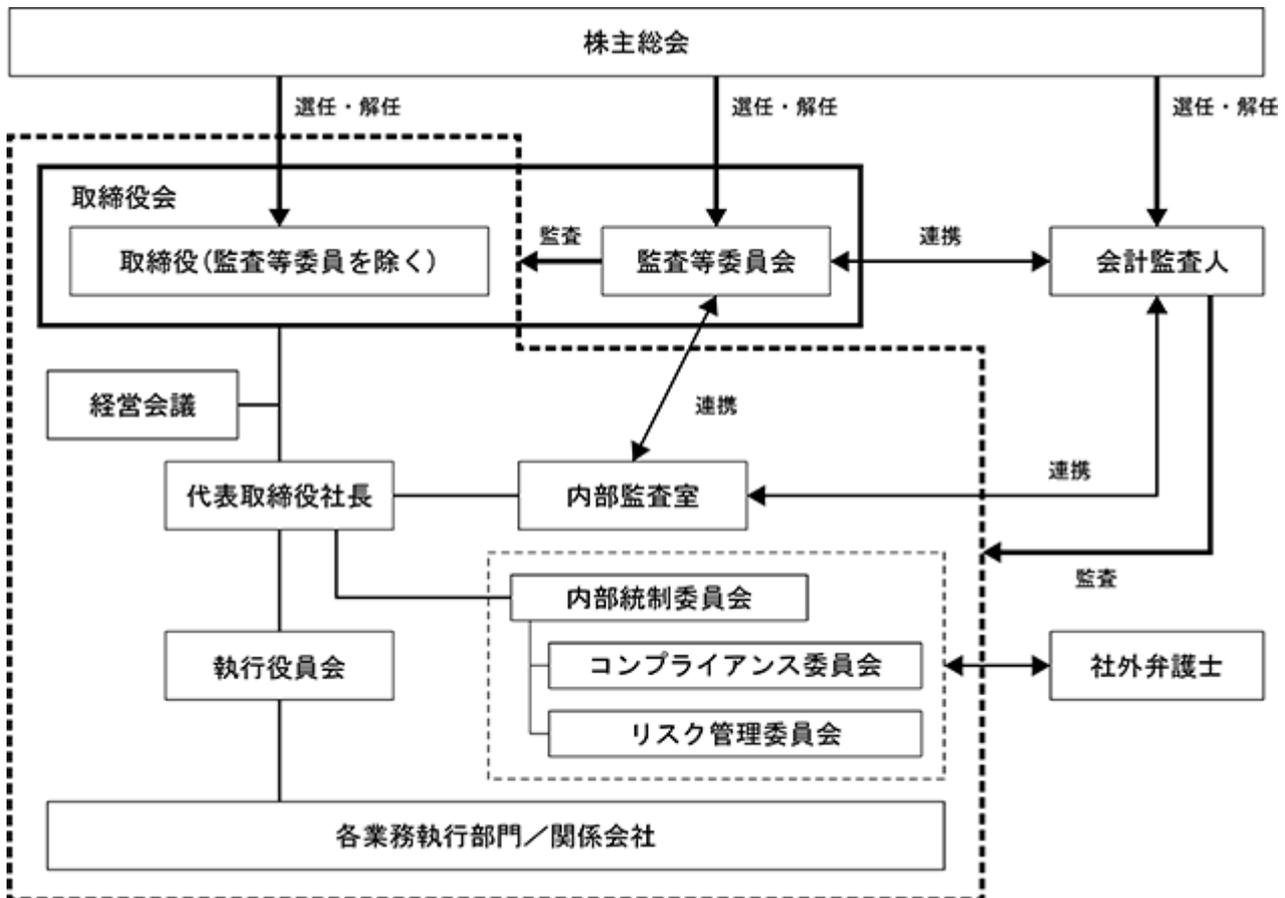
内部監査については、内部監査室8名において当社及びグループ各社に対する業務監査及び会計監査を並行して実施しております。監査は年度計画に基づき実施され、監査結果は速やかに取締役会へ報告されます。また、経営層の意向や各種のリスク分析結果に基づき、臨時的監査も適宜実施しており、コンプライアンスの徹底を図っております。

<会計監査>

会計監査人として、「PwCあらた有限責任監査法人」と監査契約を締結しております。会社法及び金融商品取引法に基づく監査を受けるとともに、重要な会計的課題については随時相談を行い処理の適正化につとめてまいります。

(会計監査業務を執行する予定の公認会計士の氏名)

指定有限責任社員・業務執行社員 川原光爵、那須伸裕、千葉達哉



(a) 内部統制システム、リスク管理体制に関する基本的考え方及びその整備状況

1. 取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(1)コンプライアンス基本規程及び役職員行動規範に基づき、コンプライアンス委員会、統括者、責任者を中心としたコンプライアンス体制の維持を図ることとする。

(2)内部監査部門としての内部監査室は、業務運営の状況を把握し、その改善を指導・支援することとする。

(3)法令違反その他のコンプライアンスに関する事実についての社内報告体制として、ヘルプライン規程に基づき社内通報システムを運用することとする。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る文書その他の情報については、当社の文書に関する社内規程に従い、その保存媒体に応じて適切に保存・管理することとする。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

(1)リスク管理規程に基づき、リスク管理委員会、統括者、責任者を中心としたリスク管理体制を維持し、グループ会社全体のリスクを総括的に管理するものとする。

(2)内部監査部門としての内部監査室はリスク管理状況を監査し、その結果を定期的に取り締役に報告するものとする。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

(1)取締役会を原則として月1回定時に開催するほか、必要に応じて適時臨時に開催するものとし、当社及びグループ会社に影響を及ぼす重要事項については、事前に執行役員会において議論を行い、取締役会の審議を経て執行決定を行うものとする。

(2)業務の迅速化・適正化を更に高めるため、ITを積極的に活用し、取締役の職務執行の効率化に寄与するものとする。

(3)取締役会の決定に基づく業務執行については、業務分掌及び稟議取扱規程に基づき執行することとする。

5. グループ会社における業務の適正を確保するための体制

(1)グループ会社全てに適用する行動指針としてのグループ会社行動原則のもと、これに基づきグループ各社で定めた諸規程をもってグループ会社における業務の適正を確保するものとする。

(2)子会社管理規程に基づく当社への決裁・報告制度によりグループ会社経営の管理を行うものとし、必要に応じてモニタリングを行うものとする。

(3)グループ会社は、当社の経営指導内容が法令に違反し、その他、コンプライアンス上問題があると認められた場合には、当社コンプライアンス委員会に報告するものとする。コンプライアンス委員会は直ちに監査等委員会に報告を行うとともに意見を述べるができるものとする。監査等委員会は意見を述べるとともに、改善策の策定を求めることができるものとする。

6. 監査等委員会の職務を補助すべき使用人を置くことに関する体制並びに当該使用人の独立性に関する事項及び監査等委員会の当該使用人に対する指示の実効性確保に関する事項

(1)監査等委員会からその職務を補助すべき使用人を置くことを求められた場合、必要な人材を任命するものとする。

(2)補助者の任命、評価、異動、懲戒については、監査等委員会の同意を要するものとする。

7. 監査等委員会への報告に関する体制及び当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

(1)取締役及び使用人は、法定の事項に加え、執行役員会の審議案件、内部監査の監査結果、ヘルプラインシステムの通報状況並びに当社及びグループ会社に重大な影響を与える事項について、監査等委員会に都度報告するものとする。

(2)当該報告を行った取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行わないものとする。

8. その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(1)監査等委員会はいつでも必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができるものとする。

(2)監査等委員会は役付取締役、会計監査人及び内部監査室との定期的な意見交換会をそれぞれ開催するものとする。

(3)監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の請求をしたときは、当該費用が監査等委員会の職務の執行に必要と認める場合には、これを速やかに支払うものとする。

(b) 取締役の選任の決議要件

取締役は監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して株主総会の決議で選任します。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

(c) 株主総会決議によらず、取締役会で決議することができる定款に定めた事項

1. 自己株式の取得

当社は、株主還元及び資本効率の向上と、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策遂行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

2. 剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主及び登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める金銭による剰余金の配当（中間配当金）をすることができる旨を定款に定めております。

3. 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役が期待される役割を發揮できるようにするためのものです。

(d) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めています。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を目的とするものです。

(2) 【役員の状況】

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率11%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
代表取締役会長 最高経営責任者	里見多一	1947年12月8日生	1985年4月 1987年7月 2000年1月 2003年6月 2005年6月 2011年4月 2017年6月	当社入社 当社取締役 当社常務取締役 当社専務取締役 当社代表取締役副社長 当社代表取締役社長 当社代表取締役会長(現)	(注)2	4,388
代表取締役社長 最高執行責任者	松本 満	1947年7月9日生	1974年4月 1997年9月 2004年3月 2005年4月 2013年5月 2017年6月 2020年6月	新日本製鐵株式会社(現日本製鐵株式会社)入社 新日鉄情報通信システム株式会社(現日鉄ソリューションズ株式会社)入社 日鉄日立システムエンジニアリング株式会社入社 同社営業統括本部副本部長 同社退社 当社社外取締役(監査等委員) 当社代表取締役社長(現)	(注)2	-
取締役 管理本部長	田村裕保	1960年6月5日生	1983年4月 2009年12月 2015年6月	当社入社 当社経理部統括部長 当社取締役・管理本部長(現)	(注)2	179
取締役 技術本部長兼 総合技術研究所長	吉田昌之	1962年8月9日生	1987年4月 2012年4月 2013年6月 2017年6月 2018年4月	当社入社 当社総合技術研究所第一研究センター所長 パーカー表面処理科技(上海)総経理 当社取締役・総合技術研究所長 当社取締役・技術本部長兼総合技術研究所長(現)	(注)2	37
取締役	江森史麻子	1965年10月28日生	2002年10月 2003年6月 2004年9月 2009年3月 2009年4月 2017年4月 2019年6月	弁護士登録 江森総合法律事務所開設 弁理士登録 大洋綜合法律事務所開設(現) 駒澤大学法科大学院准教授 駒澤大学法科大学院教授(現) 当社社外取締役(現)	(注)2	-
取締役	森 達哉	1968年3月25日生	2002年12月 2006年7月 2010年5月 2012年11月 2019年6月	株式会社あおぞら銀行入行 日本アジア投資株式会社入社 ニューホライズン・キャピタル株式会社入社 オフィス・プライフィス設立(現) 当社社外取締役(現)	(注)2	-

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (百株)
取締役 (常勤監査等委員)	細金逸人	1960年3月23日生	1983年4月 2012年11月 2015年6月 2019年4月 2020年6月	当社入社 当社製品事業本部中京事業部長 当社取締役・タイパー・カライジング株式会社代表取締役社長 当社取締役・経営企画本部長 当社取締役(常勤監査等委員)(現)	(注)4	107
取締役 (監査等委員)	久保田正治	1958年5月20日生	1989年4月 1990年4月 2019年6月	弁護士登録 第二東京弁護士会入会 神宮前法律事務所所長(現) 当社社外取締役(監査等委員)(現)	(注)3	-
取締役 (監査等委員)	近 浩二	1962年6月16日生	2013年3月 2015年3月 2017年3月 2019年4月 2019年6月 2020年4月	日本生命保険相互会社 執行役員営業企画部長 同社執行役員お客様サービス副本部長 同社常務執行役員本店法人営業本部長 株式会社星和ビジネスリンク代表取締役副社長 当社社外取締役(監査等委員)(現) 株式会社星和ビジネスリンク代表取締役社長(現)	(注)3	-
計						4,712

- (注) 1 取締役の江森史麻子及び森達哉は、社外取締役であります。
取締役(監査等委員)の久保田正治及び近浩二は、社外取締役であります。
- 2 取締役(監査等委員である取締役を除く)の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査等委員である取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
委員長 細金逸人、委員 久保田正治、委員 近浩二
- 6 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (百株)
山崎 敏男	1950年1月25日生	1984年4月 2008年6月 2019年6月 2020年3月	株式会社パーカーコーポレーション入社 同社取締役 同社顧問 同社退社(現)	-

社外取締役

(a) 選任状況及び選任方法

当社は、社外取締役4名（監査等委員である社外取締役2名を含む）を選任しております。

社外取締役の選任につきましては、企業法務、企業会計又は企業経営等における豊富な経験・実績と高い知識・知見を有していることを重視しております。また、独立性の判断基準については、東京証券取引所が定める独立性基準を充足し、一般株主と利益相反の生じるおそれのない者を選任しております。

(b) 社外取締役と当社の関係及び役割

- ・社外取締役 江森史麻子氏は、弁護士としての専門的見地と豊富な経験を有しており、取締役会の監督機能とコンプライアンス強化のために適切な助言をいただけるものと判断しております。
- ・社外取締役 森達哉氏は、経営コンサルタントとして複数の事業会社の経営に携わる等、企業経営に関する豊富な経験と幅広い知見を有しており、取締役会の監督機能とコーポレートガバナンス強化のために適切な助言をいただけるものと判断しております。
- ・社外取締役 久保田正治氏は、弁護士としての専門的見地と豊富な経験を有しており、独立した立場で監査等委員の職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。
- ・社外取締役 近浩二氏は、会社経営の豊富な経験と幅広い見識を有しており、独立した立場で監査等委員の職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。

(c) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役は、会社法427条第1項及び当社定款の規定に基づき、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、金500万円又は法令が定める額のいずれか高い額としております。

(d) 社外取締役又は社外監査等委員による監督又は監査と内部監査、監査等委員監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、原則毎月開催される取締役会等の重要な会議に出席するほか、代表取締役との定期的な会合を行うことにより、経営の監督機能の強化及び向上を図っております。

監査等委員会は、監査の実効性を確保するため、取締役、会計監査人及び内部監査室と定期的又は必要に応じて随時情報交換を行い、法定事項、執行役員会の審議案件及び内部監査の監査結果等の当社グループに重大な影響を与える事項についての報告を受けるほか、社外取締役との意見交換会を定期的実施する等連携の強化に取り組んでおります。また、内部統制システムの運用状況について、適宜報告を求めるとともに取締役会に対して意見表明を行う等監査の実効性強化にも努めております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、取締役3名で構成されており、うち社外取締役2名となります。原則として毎月1回開催しております。監査等委員である取締役は、取締役会に出席し、適宜意見の表明を行うほか、重要な書類の閲覧、事業所への往査、子会社の調査等を通じた監査を行っております。また、会計事項については、会計監査人から監査等委員会へ定期的に報告が行われます。主な検討事項は、監査方針及び監査実施計画の策定、内部統制システムの運用状況の監査及び実施基準の策定、取締役会への意見表明及びグループガバナンスの強化等であります。

なお、内部統制システムの監査機能の一層の強化を図るため、内部監査室長を監査等委員会の補助使用人として選任いたしました。

社外取締役 久保田正治は、弁護士としての専門的見地と豊富な経験を有しており、独立した立場で監査等委員の職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。

社外取締役 近浩二は、会社経営の豊富な経験と幅広い見識を有しており、独立した立場で監査等委員の職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。

当事業年度において、監査等委員会を25回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については以下のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数
松本 満	25	25
久保田 正治	21	21
近 浩二	21	21

社外取締役 久保田正治及び近浩二の監査等委員会出席状況は、2019年6月27日就任以降に開催された監査等委員を対象としております。

内部監査の状況

内部監査については、内部監査室8名において当社及びグループ各社に対する業務監査及び会計監査を並行して実施しております。監査は年度計画に基づき実施され、監査結果は速やかに取締役会へ報告されます。また、経営層の意向や各種のリスク分析結果に基づき、臨時的監査も適宜実施しており、コンプライアンスの徹底を図っております。

会計監査の状況

) 監査法人の名称

P w C あらた有限責任監査法人

) 業務を執行した公認会計士

川原光爵

那須伸裕

千葉達哉

) 監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士6名、会計士試験合格者8名、その他38名となります。

) 監査法人の選定方針と理由

会計監査人の選定に際しては、効率的な監査業務を実施することができる一定規模、監査日数、監査期間及び具体的な監査実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当であること、さらに監査実績等により総合的に選定しております。

）監査等委員会による監査法人の評価

日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、会計監査人から監査計画・監査の実施状況・職務の遂行が適正に行われていることを確保するための体制・監査に関する品質管理基準等の報告を受け、検討し総合的に評価しております。

なお、内部監査、監査等委員会監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係につきましては、「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (2) 役員の状況 社外取締役 (d) 社外取締役又は社外監査等委員による監督又は監査と内部監査、監査等委員監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係」に記載の通りであります。

）監査法人の異動

当社の監査法人は次のとおり異動しております。

第134期（連結・個別） 東陽監査法人

第135期（連結・個別） P w C あらた有限責任監査法人

なお、臨時報告書に記載した事項は次のとおりであります。

(1)異動に係る監査公認会計士等の名称

選任する監査公認会計士等の名称

P w C あらた有限責任監査法人

退任する監査公認会計士等の名称

東陽監査法人

(2)異動の年月日

2019年6月27日（第134期定時株主総会開催予定日）

(3)退任する公認会計士等が直近において監査公認会計士等となった年月日

2018年6月28日

(4)退任する監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項

該当事項はありません

(5)異動の決定又は異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である東陽監査法人は2019年6月27日開催予定の当社第134期定時株主総会終結の時をもって任期満了となるため、その後任として新たに会計監査人の選任を行うものであります。

監査等委員会がP w C あらた有限責任監査法人を会計監査人の候補者とした理由は、現会計監査人が長年にわたって監査を継続していることから、会計監査人の交代により新たな視点での効果的な監査が期待できることに加え、第三次中期経営計画のもと、グローバルな監査体制を構築している会計監査人を検討した結果、同監査法人が専門性、独立性及び品質管理体制の観点で適任であると判断したためであります。

(6)上記(5)の理由及び経緯に対する監査報告書等の記載事項に係る退任する公認会計士等の意見

特段の意見はない旨の回答を得ております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	43		85	
連結子会社				
計	43		85	

(注) 1 前連結会計年度に係る上記監査公認会計士等は、東陽監査法人です。

2 当連結会計年度に係る上記監査公認会計士等は、PwCあらた有限責任監査法人です。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(PwCネットワーク・ファーム)に対する報酬(aを除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社				15
連結子会社			1	
計			1	15

当社における非監査業務の内容は、海外拠点における関係会社の特定の業務プロセス調査及び内部統制、コンプライアンス管理の評価であります。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査日数、会社規模等を勘案し、監査等委員会の同意を得て、当社の取締役会において協議・決定されております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画・監査の実施状況及び報酬見積りの算定根拠等を確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

）方針

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めており、月額報酬、賞与及び業績連動型株式報酬により構成されています。その総額については株主総会にて上限を決定し、会社業績との連動性を確保し、職責と成果を反映させた体系としています。監査等委員である取締役の報酬は、月額報酬のみであります。

なお、2017年6月29日開催の第132期定時株主総会において、取締役（監査等委員を除く）の報酬限度額は年額500百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）、取締役（監査等委員）の報酬限度額は年額40百万円以内と決議いただいております。

賞与は、主として本業の経営成績を示す営業利益を指標として、前年同期増減を加味した上で、総合的に決定しております。

業績連動型株式報酬制度は、事業年度毎の業績に応じポイントを付与し、その累計ポイント相当分の報酬等を退任時に支給する制度であり、ポイント付与の有無及びその付与数は事業年度毎に決定します。

その詳細は以下のとおりです。

(1) 対象者

取締役（社外取締役及び監査等委員である取締役を除く）、執行役員を対象とし、以下の要件を満たしていることを条件とします。

役員株式給付規程で定める受給権利者の要件を満たしていること

株主総会決議において解任の決議をされた場合に該当しないこと、または取締役、執行役員としての義務の違反があったことに起因して退任し給付を受ける権利の全部が受けられない場合に該当しないこと

(2) 業績連動型報酬として給付される報酬等の内容

当社普通株式及び金銭（以下、「当社株式等」という）とします。

(3) 業績連動型株式報酬の支給額等の算定方法

付与ポイントの決定方法

i. ポイント付与の時期

A. 毎年の6月30日（B.に記載の場合の退任日とあわせて、以下「ポイント付与日」という。）現在における受給予定者に対して、前年の4月1日から当年の3月31日までの期間を評価対象期間として、同日にポイントを付与します。

B. A.のほか、役員を退任するときは、当該退任日にポイントを付与します。

. 報酬等と連動する業績評価指標

毎事業年度における連結ベースの経常利益の目標値に対する達成率を報酬等に連動する指標といたします。なお、当事業年度における目標値は、経常利益18,000百万円に対して実績値は15,723百万円でした。

. 付与するポイント数

A. 職務執行期間において在任している場合に付与するポイント

次の算式により算出されるポイントとします。

（算式）

別表1に定める役位別ポイント×別表2に定める業績係数

B. 当年の3月末時点の役位にてポイントの数を算出し、評価対象期間中に役位の異動があった場合には、異動前の1カ月未満は切り上げし、異動後の1カ月未満は切り捨てし、月割にてポイントの数を算出します。月の途中で昇格・降格の異動があった場合の異動当月は、異動前の役位として役位別ポイントを算出します。1年に満たない在任期間については、月割（1カ月未満の端数は切り上げる）にてポイントの数を算出し、業績係数は1.0とします。

(別表1) 役位別ポイント数は以下のとおりです。

役位	役位別ポイント数
名誉会長	4,300
会長	4,300
社長	4,300
副社長	3,300
専務・常務・相談役・取締役	2,800
執行役員A	2,800
執行役員B	500

代表権のある取締役は、上表のポイント数に加えて2,200ポイントを付与するものとします。

(別表2) 業績連動係数は以下のとおりです。

連結経常利益目標達成率 (前期実績比)	業績連動係数
115%以上	1.2
105%以上115%未満	1.1
95%以上105%未満	1.0
85%以上95%未満	0.9
85%未満	0.8

支給する当社株式等

給付する株式数及び金銭の額は以下の算式にて算出します。

(算式)

給付する株式数 = 権利確定日時時点のポイント数に1.0を乗じた数から、単元未満の端数(以下「単元未満株の端数」という。)を減じた数(以下「給付株式数」という。)×70%(小数点以下切り捨て)
 ただし、上記の算式により算出した給付する株式数に単元未満株が生じる場合、単元未満株を切り捨てるものとします。

(算式)

給付する金銭の額 = (給付株式数×30% + 単元未満株の端数) × 権利確定日の本株式の時価(1)
 ただし、上記の算式の計算過程のうち「給付株式数×30%」に単元未満株が生じる場合、単元株にこれを切上げて計算するものとします。

受給予定者が死亡した場合

受給予定者が死亡したとき、当該受給予定者の遺族が役員株式給付規程で定める要件を満たした場合に、遺族に対し金銭を支給します。遺族給付の額は、次の算式により算出される金銭の額とします。

(算式)

遺族給付の額 = 死亡した受給予定者の保有ポイント数 × 権利確定日時における本株式の時価(1)
 (1) 本制度において使用する株式の時価は、株式の時価の算定を要する日の上場する主たる金融商品取引所における終値または気配値とし、当該日に終値または気配値が公表されない場合には、終値の取得できる直近の日まで遡って算定するものとします。

役位別の上限となるポイント数

第135期において算出される役位別の上限となる付与ポイント数は以下のとおりです。なお下記の付与ポイント数はあくまでも上限であり、実際に給付する株式数は、本項の算定方法により定まる数としません。

役位	役位別ポイント数
名誉会長	5,160
会長	5,160
社長	5,160
副社長	3,960
専務・常務・相談役・取締役	3,360
執行役員A	3,360
執行役員B	600

) 手続

株主総会で承認された報酬限度額の範囲内で、取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬については、取締役会で配分方法の取り扱いを協議し、監査等委員会の適切な関与・助言を得た上で、代表取締役及びそれに準じる取締役の協議により決定しております。また、監査等委員である取締役の報酬は、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

(a) 提出会社の役員区分毎の報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	株式報酬	
取締役 (監査等委員及び社外取締役を除く。)	226	159	45	21	8
監査等委員 (社外取締役を除く。)	1	1	-	-	1
社外役員	36	36	-	-	7

(注) 1 2017年6月29日開催の第132期定時株主総会決議に基づき、同日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しております。

2 上記報酬額及び対象となる役員の数には、当事業年度に係る定時株主総会終結の時をもって退任した役員も含めております。

(b) 提出会社の役員の連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

(c) 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の 員数(名)	内容
21	3	給与及び賞与

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、取引関係の有無を区分の基本軸として考えており、取引関係の維持・強化に繋がり中長期的な企業価値の向上に資すると判断した場合に純投資目的以外の目的である投資株式を保有していく方針です。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、企業価値を向上させるための中長期的な観点から、将来も含めた取引先との関係の維持・強化等を目的として、政策的に必要な株式を保有しており、当該株式の保有の目的や経済合理性等を毎年検証し、保有の適否を判断しております。検証にあたっては、毎年保有株式ごとに保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか、及び中長期的な取引関係の維持・強化、シナジー創出等の保有目的に沿っているかを基に精査しています。

なお、今後の状況変化に応じて、保有の妥当性が認められないと考える場合には縮減する等見直していきます。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	9	486
非上場株式以外の株式	69	18,035

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	10	104	取引関係の維持・強化に繋がると判断したため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	188

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度		前事業年度		保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)		
(株)ダイフク	500,000	3,425	500,000	2,880	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
トヨタ自動車(株)	328,775	2,137	328,775	2,132	薬品事業・加工事業において売上取引があり、特に取引額が大きい保有先の一つである。営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)JCU	908,000	2,045	908,000	1,571	薬品事業において売上取引があり、また製造工場の原料仕入先でもある。営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)千葉銀行	2,554,082	1,208	2,554,082	1,535	同行に預金口座を開設しており、金融取引関係の維持・強化を目的として保有	有
大日精化工業(株)	359,600	848	359,600	1,085	製造工場の原料仕入先であり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
Dürr AG	276,000	601	276,000	1,168	当社子会社の資本業務提携先であり当社グループの売上に貢献している。	有
東プレ(株)	484,900	581	484,900	1,002	薬品事業において同社の関係会社と売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
三菱電機(株)	375,879	501	375,879	534	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
(株)横河ブリッジホールディングス	245,500	483	245,500	467	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
日本化学産業(株)	490,000	455	490,000	545	薬品事業・加工事業において仕入取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
NOK(株)	373,500	445	373,500	643	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)シンニッタン	1,878,400	420	1,878,400	676	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
第一工業製薬(株)	100,000	375	100,000	348	市場開拓を目的として保有	有
(株)オカムラ	400,000	346	400,000	463	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)三井住友フィナンシャルグループ	130,874	343	130,874	507	同行に預金口座を開設しており、金融取引関係の維持・強化を目的として保有	有
アマノ(株)	121,100	289	121,100	315	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,978,176	244	3,178,176	544	同行に預金口座を開設しており、金融取引関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)ADEKA	145,000	195	145,000	235	同社の関係会社が製造工場の原料仕入先であり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
日産自動車(株)	548,790	195	548,790	498	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無

銘柄	当事業年度		前事業年度		保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)		
関西ペイント(株)	93,381	192	93,381	197	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
戸田建設(株)	299,000	188	299,000	203	弊社ビルの建設業者(仕入先)であり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
MS&AD インシ アランスグル ープホール ディング ス(株)	58,649	177	58,649	197	リスク管理に係る取引関係の維持・強化を目的として保有	前事業年度：無 当事業年度：有
(株)三菱UFJ フィナン シャル・グ ループ	408,650	164	408,650	224	同行に預金口座を開設しており、金融取引関係の維持・強化を目的として保有	有
スズキ(株)	63,000	162	63,000	308	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
大和ハウス工 業(株)	60,000	160	60,000	211	薬品事業において売上取引があり、また弊社ビルの建設業者(仕入先)でもある。営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
ユシロ化学工 業(株)	129,300	152	129,300	165	加工事業において仕入取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
(株)TBK	322,000	150	322,000	131	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
レイズネク スト(株)	102,200	125	102,200	120	加工事業において仕入取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
デンヨー(株)	59,000	113	59,000	81	市場開拓を目的として保有	有
プレス工業(株)	424,300	102	424,300	249	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
日本製鉄(株)	108,645	100	100,540	196	薬品事業・加工事業において売上取引があり、特に取引額が大きい保有先の一つである。営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
日油(株)	28,875	99	28,875	108	市場開拓を目的として保有	有
いすゞ自動 車(株)	127,298	91	124,200	180	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
ニチアス(株)	34,536	69	33,952	74	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
東京製綱(株)	103,200	63	103,200	100	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
大日本塗料(株)	76,400	60	-	-	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
高周波熱錬(株)	75,000	52	75,000	67	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
鳥越製粉(株)	60,500	52	60,500	46	持分法適用会社において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
東京計器(株)	73,800	51	73,800	81	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
蝶理(株)	30,000	46	30,000	46	製造工場の原料仕入先であり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
ウシオ電機(株)	42,185	43	42,185	54	市場開拓を目的として保有	無

銘柄	当事業年度		前事業年度		保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (百万円)		
野村ホールディングス(株)	94,536	43	94,536	37	金融取引関係の維持・強化を目的として保有	前事業年度：無 当事業年度：有
(株)スパンクリートコーポレーション	129,400	41	129,400	54	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	13,000	40	13,000	51	金融取引関係の維持・強化を目的として保有	無
(株)ムロコーポレーション	39,134	37	38,466	61	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
佐藤商事(株)	32,200	27	32,200	29	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
フジオーゼックス(株)	10,000	26	10,000	35	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
オーウエル(株)	40,000	23	40,000	27	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
井関農機(株)	20,031	22	20,031	32	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
(株)エクセディ	12,600	20	12,600	30	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
日鍛バルブ(株)	98,154	19	98,154	33	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	有
アルプスアルパイン(株)	16,203	16	16,203	37	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
(株)日立製作所	4,990	15	4,990	17	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
JFEホールディングス(株)	21,791	15	21,791	40	JFEスチール(株)とは薬品事業・加工事業において売上取引があり、特に取引額が大きい保有先の一つである。営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
北川精機(株)	42,420	14	41,052	19	加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
(株)クボタ	10,000	13	10,000	15	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
日産車体(株)	14,000	13	14,000	13	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
本田技研工業(株)	4,987	12	4,407	13	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
(株)IHI	7,716	9	7,284	19	薬品事業・加工事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無
八千代工業(株)	22,000	8	22,000	15	薬品事業において売上取引があり、営業上の関係の維持・強化を目的として保有	無

(注)当社の株式の保有の有無については、銘柄が持株会社の場合はその主要な子会社の保有分(実質保有株式数)を勘案し記載しています。

みなし保有株式

銘柄	当事業年度		前事業年度		保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	貸借対照表 計上額 (百万円)	株式数(株)	貸借対照表 計上額 (百万円)		
トヨタ自動車(株)	156,800	1,019	156,800	1,017	退職給付信託に抛出、議決権行使の 指図権は留保	有

(注)貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算していません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計 上額の合計額 (百万円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	4	382	3	600

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(百万円)	売却損益の 合計額(百万円)	評価損益の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	13	10	148

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
丸一鋼管(株)	25,700	66
四国化成工業(株)	23,100	22

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	55,070	59,992
受取手形及び売掛金	4 40,583	36,420
有価証券	3,243	2,676
商品及び製品	2,860	2,995
仕掛品	2,161	1,620
原材料及び貯蔵品	5,248	5,174
その他	2,682	3,614
貸倒引当金	163	1,460
流動資産合計	111,687	111,034
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,549	22,419
機械装置及び運搬具（純額）	17,574	16,819
土地	16,088	16,589
建設仮勘定	2,717	4,515
その他（純額）	2,045	2,133
有形固定資産合計	1, 3 60,976	1, 3 62,476
無形固定資産	2,307	2,489
投資その他の資産		
投資有価証券	2 32,612	2 29,245
退職給付に係る資産	85	77
繰延税金資産	1,721	2,268
その他	2 9,523	2 9,285
貸倒引当金	97	103
投資その他の資産合計	43,846	40,773
固定資産合計	107,130	105,739
資産合計	218,818	216,773

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 22,557	18,473
短期借入金	50	-
1年内返済予定の長期借入金	769	511
未払法人税等	2,594	1,843
賞与引当金	2,697	2,447
役員賞与引当金	101	95
その他	4 8,457	8,012
流動負債合計	37,226	31,384
固定負債		
長期借入金	1,214	983
役員退職慰労引当金	205	204
退職給付に係る負債	9,549	9,819
繰延税金負債	2,984	1,647
その他	877	1,786
固定負債合計	14,832	14,441
負債合計	52,059	45,826
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,560	4,560
資本剰余金	4,350	4,300
利益剰余金	130,910	137,710
自己株式	8,568	10,388
株主資本合計	131,253	136,183
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,382	7,208
繰延ヘッジ損益	0	55
為替換算調整勘定	226	244
退職給付に係る調整累計額	47	31
その他の包括利益累計額合計	9,203	7,051
非支配株主持分	26,302	27,713
純資産合計	166,759	170,947
負債純資産合計	218,818	216,773

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	129,207	119,028
売上原価	1 85,228	1 78,816
売上総利益	43,978	40,211
販売費及び一般管理費		
運搬費	2,149	1,955
役員報酬	553	500
従業員給料	8,152	8,030
賞与	2,129	2,017
賞与引当金繰入額	1,635	1,546
退職給付費用	744	794
減価償却費	1,235	1,288
その他	10,353	11,475
販売費及び一般管理費合計	2 26,955	2 27,609
営業利益	17,023	12,601
営業外収益		
受取利息	353	418
受取配当金	660	680
受取賃貸料	461	785
受取技術料	463	426
持分法による投資利益	1,134	1,321
その他	684	462
営業外収益合計	3,759	4,096
営業外費用		
支払利息	50	38
賃貸費用	-	321
たな卸資産除却損	174	-
為替差損	3	141
その他	423	472
営業外費用合計	652	974
経常利益	20,130	15,723

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
特別利益		
固定資産売却益	3 56	3 219
国庫補助金	-	289
投資有価証券売却益	0	81
特別利益合計	56	589
特別損失		
固定資産除売却損	4 170	4 295
固定資産圧縮損	-	270
減損損失	5 79	-
投資有価証券評価損	100	185
関係会社株式売却損	212	-
関係会社出資金評価損	117	-
その他	12	1
特別損失合計	694	752
税金等調整前当期純利益	19,492	15,560
法人税、住民税及び事業税	5,505	4,176
法人税等調整額	72	32
法人税等合計	5,578	4,143
当期純利益	13,914	11,416
非支配株主に帰属する当期純利益	2,490	1,967
親会社株主に帰属する当期純利益	11,424	9,449

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
当期純利益	13,914	11,416
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,493	2,326
繰延ヘッジ損益	3	61
為替換算調整勘定	2,110	549
退職給付に係る調整額	98	18
持分法適用会社に対する持分相当額	406	119
その他の包括利益合計	1 5,914	1 1,852
包括利益	7,999	9,564
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,122	7,296
非支配株主に係る包括利益	1,876	2,267

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,560	4,286	122,455	7,539	123,762
当期変動額					
剰余金の配当			2,968		2,968
親会社株主に帰属する当期純利益			11,424		11,424
自己株式の取得				993	993
自己株式の処分				15	15
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		64		50	13
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減				0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	64	8,455	1,028	7,490
当期末残高	4,560	4,350	130,910	8,568	131,253

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	12,943	3	1,693	50	14,589	24,902	163,255
当期変動額							
剰余金の配当							2,968
親会社株主に帰属する当期純利益							11,424
自己株式の取得							993
自己株式の処分							15
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							13
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減							0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,560	3	1,920	98	5,386	1,399	3,986
当期変動額合計	3,560	3	1,920	98	5,386	1,399	3,503
当期末残高	9,382	0	226	47	9,203	26,302	166,759

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,560	4,350	130,910	8,568	131,253
当期変動額					
剰余金の配当			2,649		2,649
親会社株主に帰属する当期純利益			9,449		9,449
自己株式の取得		129		1,824	1,954
自己株式の処分		39		4	43
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		39			39
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減		0		0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					-
当期変動額合計	-	50	6,800	1,820	4,929
当期末残高	4,560	4,300	137,710	10,388	136,183

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	9,382	0	226	47	9,203	26,302	166,759
当期変動額							
剰余金の配当							2,649
親会社株主に帰属する当期純利益							9,449
自己株式の取得							1,954
自己株式の処分							43
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							39
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減							0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,174	55	17	16	2,152	1,411	741
当期変動額合計	2,174	55	17	16	2,152	1,411	4,188
当期末残高	7,208	55	244	31	7,051	27,713	170,947

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	19,492	15,560
減価償却費	5,992	6,516
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	1,308
受取利息及び受取配当金	1,014	1,099
持分法による投資損益(は益)	1,134	1,321
売上債権の増減額(は増加)	1,068	4,056
たな卸資産の増減額(は増加)	1,104	528
前渡金の増減額(は増加)	619	68
仕入債務の増減額(は減少)	1,595	3,992
前受金の増減額(は減少)	2,619	94
その他	538	332
小計	21,297	21,386
利息及び配当金の受取額	1,304	1,270
利息の支払額	71	38
法人税等の支払額	5,238	5,103
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,292	17,514
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,150	2,492
定期預金の払戻による収入	715	1,093
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	797	636
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	400	1,424
有形固定資産の取得による支出	8,823	9,171
有形固定資産の売却による収入	172	842
貸付けによる支出	10	33
貸付金の回収による収入	6	45
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	1,055	-
関係会社株式の売却による収入	222	-
その他	21	194
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,299	8,732

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	4	-
短期借入金の返済による支出	144	50
長期借入れによる収入	200	100
長期借入金の返済による支出	1,056	541
非支配株主からの払込みによる収入	234	-
自己株式の取得による支出	993	1,824
自己株式の売却による収入	15	83
配当金の支払額	2,966	2,704
非支配株主への配当金の支払額	649	680
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	27	35
その他	279	456
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,663	6,109
現金及び現金同等物に係る換算差額	753	109
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	576	2,781
現金及び現金同等物の期首残高	53,149	53,726
現金及び現金同等物の期末残高	1 53,726	1 56,507

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 47社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

なお、パーカー・サーフェス・テクノロジー・アジアパシフィック㈱、日本パーカライジングヨーロッパ㈱及びデラミンナイトライディングソルト ユーエス㈱については、新たに会社を設立したことにより連結子会社に追加しております。

(2) 非連結子会社 2社

パーカーパシフィックインターナショナル㈱、上海パーカー表面改質

(3) 連結の範囲から除外した理由

非連結子会社は、総資産、売上高、当期純損益ならびに利益剰余金等の点からみて、いずれも小規模であり、連結財務諸表に及ぼす影響は軽微でありますので、除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用非連結子会社 1社

パーカーパシフィックインターナショナル㈱

(2) 持分法適用関連会社 10社

主要な会社等の名称

㈱パーカーコーポレーション、パーカー熱処理工業㈱、㈱雄元、瀋陽パーカライジング、上海パーカライジング

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

上海パーカー表面改質

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

インドに所在する連結子会社を除く在外連結子会社の決算日は12月31日であり、同日現在の財務諸表を使用しておりますが、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）によっております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

ロ たな卸資産

主として総平均法に基づく原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

ハ デリバティブ取引により生ずる債権及び債務

時価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、在外連結子会社は主として定額法によっております。

また、主な耐用年数は下記のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び運搬具 2～15年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

ロ 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与で支給対象期間に対応して費用負担するため、支給見積額を計上しております。

ハ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

ニ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

完成工事高の計上は、連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジによっております。また、為替予約については、振当処理の要件を満たす場合は振当処理を行っております。金利スワップについては、特例処理の要件を満たす場合は特例処理を適用します。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段については、為替予約取引及び金利スワップを適用します。また、ヘッジ対象については、外貨建金銭債権債務及び借入金利息を対象にしております。

ハ ヘッジ方針

金利変動リスク及び為替変動リスクの低減のため、対象債権債務の範囲内でヘッジを適用します。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動の累計とヘッジ手段の相場変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして有効性の評価を実施します。

(8) のれんの償却に関する事項

個別案件ごとに判断し、10年以内の合理的な年数で均等償却を行っております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヵ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。なお、資産に係る控除対象外消費税等は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

(1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(以下「時価算定会計基準等」という。)が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」におけるトレーディング目的で保有する棚卸資産

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「為替差損」及び「特別利益」の「その他」に含めていた「投資有価証券売却益」は、金額的重要性が増したため当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた427百万円は、「為替差損」3百万円と「その他」423百万円として組み替え、「特別利益」の「その他」に表示していた0百万円は、「投資有価証券売却益」0百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「減損損失」、「賞与引当金の増減額」、「退職給付に係る負債の増減額」、「役員退職慰労引当金の増減額」、「支払利息」、「為替差損益」、「固定資産売却損益」、「有形固定資産除却損」、「未払金の増減額」及び「未払消費税等の増減額」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「減損損失」79百万円、「賞与引当金の増減額」121百万円、「退職給付に係る負債の増減額」232百万円、「役員退職慰労引当金の増減額」88百万円、「支払利息」50百万円、「為替差損益」67百万円、「固定資産売却損益」29百万円、「有形固定資産除却損」84百万円、「未払金の増減額」405百万円及び「未払消費税等の増減額」69百万円、「その他」357百万円は、「その他」538百万円として組み替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、固定資産の減損会計等の会計上の見積りにおいて、期末日以降連結財務諸表作成時までに入手可及な情報を考慮し、当期末の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、翌連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

- 1 有形固定資産から直接控除した減価償却累計額は次のとおりであります。減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
減価償却累計額	72,228百万円	76,426百万円

- 2 非連結子会社及び関連会社に対する出資は次のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
投資有価証券(株式)	5,628百万円	6,557百万円
投資その他の資産(その他)		
出資金	4,760	5,026

- 3 担保資産

担保に供している資産

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
土地	15百万円	15百万円

- 4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
受取手形	750百万円	- 百万円
支払手形	769	-
設備関係支払手形	78	-

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸資産は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損(は戻入額)は売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
たな卸資産評価損(は戻入額)	1百万円	0百万円

- 2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
研究開発費	2,154百万円	2,220百万円

- 3 固定資産売却益は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	0百万円	7百万円
機械装置及び運搬具	26	11
土地	30	200
その他	0	0
計	56	219

- 4 固定資産除売却損は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	24百万円	46百万円
機械装置及び運搬具	55	41
土地	5	104
その他	85	102
計	170	295

5 減損損失

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類
事業用資産 (重慶パーカライジング)	中国	建物、機械装置、車輛運 搬具、工具器具備品

当社グループは、原則として、事業所ごとに資産をグルーピングしておりますが、薬品事業については、関連する工場・営業所を一体としてグルーピングしております。賃貸不動産及び遊休資産については物件ごとにグルーピングしております。

上記資産グループは、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなっている事業用資産の当該減少額を減損損失(79百万円)として特別損失に計上しております。減損損失の内訳は、建物69百万円、機械装置3百万円、車輛運搬具1百万円、工具器具備品5百万円であります。

なお、当該資産の回収可能価額は、正味売却価格を零として算定しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	5,247百万円	3,443百万円
組替調整額	100	82
税効果調整前	5,146	3,360
税効果額	1,653	1,034
その他有価証券評価差額金	3,493	2,326
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	0	87
組替調整額	3	-
税効果調整前	3	87
税効果額	-	26
繰延ヘッジ損益	3	61
為替換算調整勘定		
当期発生額	2,110	549
為替換算調整勘定	2,110	549
退職給付に係る調整額		
当期発生額	118	33
組替調整額	25	7
税効果調整前	143	25
税効果額	44	6
退職給付に係る調整額	98	18
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	392	121
組替調整額	14	1
持分法適用会社に対する持分相当額	406	119
その他の包括利益合計	5,914	1,852

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	132,604,524	-	-	132,604,524
合計	132,604,524	-	-	132,604,524

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	11,272,204	1,034,358	12,400	12,294,162
合計	11,272,204	1,034,358	12,400	12,294,162

(注) 当連結会計年度期首の自己株式数には、株式給付信託口が保有する当社株式189,100株、当連結会計年度末の自己株式数には、株式給付信託口が保有する当社株式176,700株が含まれております。

(変動事由の概要)

増減数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議による取得による増加	690,500 株
子会社からの株式買取による増加	339,942 株
単元未満株式の買取による増加	313 株
持分法適用会社の持分変動による当社帰属分の増加	3,603 株
株式給付信託(BBT)による当社株式の給付による減少	10,700 株
株式給付信託(BBT)による当社株式の売却による減少	1,700 株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,607	13.00	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年11月5日 取締役会	普通株式	1,360	11.00	2018年9月30日	2018年12月10日

(注) 1 2018年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

2 1株当たり配当額には創立90周年記念配当2円が含まれております。

3 2018年11月5日取締役会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,352	11.00	2019年3月31日	2019年6月28日

(注) 2019年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	132,604,524	-	-	132,604,524
合計	132,604,524	-	-	132,604,524

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,294,162	1,441,258	161,295	13,574,125
合計	12,294,162	1,441,258	161,295	13,574,125

(注) 当連結会計年度期首の自己株式数には、株式給付信託口が保有する当社株式176,700株、当連結会計年度末の自己株式数には、株式給付信託口が保有する当社株式176,700株が含まれております。

(変動事由の概要)

増減数の内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議による取得による増加	1,440,400	株
持分法適用会社の持分変動による当社帰属分の増加	595	株
単元未満株式の買取による増加	234	株
子会社の持分変動による当社帰属分の増加	29	株
持分法適用会社の当社株式の売却による減少	113,836	株
子会社の当社株式の処分による減少	47,391	株
単元未満株式の売却による減少	68	株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,352	11.00	2019年3月31日	2019年6月28日
2019年11月8日 取締役会	普通株式	1,352	11.00	2019年9月30日	2019年12月10日

(注) 1 2019年6月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。

2 2019年11月8日取締役会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,580	13.00	2020年3月31日	2020年6月29日

(注) 2020年6月26日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	55,070百万円	59,992百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金等	1,344	3,485
現金及び現金同等物	53,726	56,507

(リース取引関係)

前連結会計年度及び当連結会計年度とも重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、設備投資計画に照らして、必要な資金を金融機関からの借入れにより調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの債権管理規程に沿ってリスク低減を図っております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが1年以内の支払期日であります。借入金の使途は運転資金(主として短期)及び設備投資資金(長期)であり、償還日は決算日後、最長で4年後であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財政状態等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表されています。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財政状態等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、取引の必要性を各事業部等で検討の上、経理担当部門が取引を行い、記帳及び契約先と残高照合等を行っており、取引実績は、所管(若しくは経理担当)の役員に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

前連結会計年度（2019年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	55,070	55,070	-
(2) 受取手形及び売掛金	40,583	40,583	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	264	255	8
関係会社株式	233	3,275	3,041
其他有価証券	29,293	29,293	-
資産計	125,446	128,479	3,032
(1) 支払手形及び買掛金	22,557	22,557	-
(2) 短期借入金	50	50	-
(3) 1年内返済予定の 長期借入金	769	769	-
(4) 未払法人税等	2,594	2,594	-
(5) 長期借入金	1,214	1,280	66
負債計	27,184	27,251	66

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記に記載しております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内返済予定の長期借入金、並びに(4) 未払法人税等

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	59,992	59,992	-
(2) 受取手形及び売掛金	36,420		
貸倒引当金(1)	1,366		
受取手形及び売掛金(純額)	35,054	35,054	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	256	264	8
関係会社株式	233	2,578	2,344
その他有価証券	24,431	24,431	-
資産計	119,968	122,320	2,352
(1) 支払手形及び買掛金	18,473	18,473	-
(2) 1年内返済予定の 長期借入金	511	511	-
(3) 未払法人税等	1,843	1,843	-
(4) 長期借入金	983	1,027	43
負債計	21,813	21,856	43

(1)受取手形及び売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記に記載しております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 1年内返済予定の長期借入金、(3)未払法人税等

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
非上場関係会社株式	5,394	6,323
非上場株式	669	676

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	55,070	-	-	-
受取手形及び売掛金	40,583	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	264	-	-
その他有価証券	3,036	513	103	705
合計	98,689	777	103	705

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	59,992	-	-	-
受取手形及び売掛金	35,054	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	256	-	-
その他有価証券	2,379	424	101	562
合計	97,426	680	101	562

(注4)短期借入金、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	50	-	-	-	-	-
1年内返済予定の 長期借入金	769	-	-	-	-	-
長期借入金	-	264	501	251	196	-
合計	819	264	501	251	196	-

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
1年内返済予定の 長期借入金	511	-	-	-	-	-
長期借入金	-	448	348	186	-	-
合計	511	448	348	186	-	-

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	連結決算日における時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	-	-	-
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	264	255	8
合計	264	255	8

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表計上額	連結決算日における時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの	256	264	8
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの	-	-	-
合計	256	264	8

2 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	22,112	8,206	13,905
(2) 債券	1,871	1,832	38
(3) その他	10	6	3
小計	23,994	10,046	13,947
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	1,244	1,537	292
(2) 債券	2,778	2,853	75
(3) その他	1,275	1,275	-
小計	5,299	5,666	367
合計	29,293	15,712	13,580

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	16,827	5,599	11,227
(2) 債券	729	718	10
(3) その他	10	6	3
小計	17,566	6,324	11,242
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	3,191	4,060	868
(2) 債券	2,943	3,143	200
(3) その他	729	729	-
小計	6,864	7,933	1,068
合計	24,431	14,258	10,173

3 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31

日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

4 減損処理を行ったその他有価証券

前連結会計年度において、有価証券について100百万円(その他有価証券の株式100百万円)減損処理を行っております。

当連結会計年度において、有価証券について185百万円(その他有価証券の株式185百万円)減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2020年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建 タイバーツ	外貨建予定取引	1,407	-	87

(注) 時価の算定方法 先物為替相場に基づき算定しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。

当連結会計年度末現在、国内では当社及び連結子会社で退職一時金制度を13社が、企業年金制度を11社が、厚生年金基金制度を3社が有しております。海外では連結子会社12社が、現地政府基準による年金制度及び退職一時金制度を設けております。

なお、当社及び連結子会社2社が加入している東京薬業厚生年金基金は、2018年4月1日付で厚生労働省の認可を受け、「厚生年金基金」から「確定給付企業年金」へと制度を移行いたしました。これに伴い、当社及び連結子会社2社は、同日付で設立された後継制度である東京薬業企業年金基金へ移行しております。

一部の退職給付制度には、退職給付信託が設定されております。

一部の連結子会社が有する企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

退職給付債務の期首残高	7,548 百万円
勤務費用	406
利息費用	76
数理計算上の差異の発生額	128
退職給付の支払額	381
合併による簡便法から原則法への移行に伴う影響額	491
退職給付債務の期末残高	8,013

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

年金資産の期首残高	1,357 百万円
期待運用収益	33
数理計算上の差異の発生額	7
事業主からの拠出額	4
退職給付の支払額	89
年金資産の期末残高	1,299

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	3,195 百万円
退職給付費用	313
退職給付の支払額	154
制度への拠出額	81
合併による簡便法から原則法への移行に伴う影響額	491
その他	31
退職給付に係る負債の期末残高	2,750

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

積立型制度の退職給付債務	9,196 百万円
年金資産	2,318
	6,877
非積立型制度の退職給付債務	2,586
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	9,464
退職給付に係る負債	9,549
退職給付に係る資産	85
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	9,464

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	406 百万円
利息費用	76
期待運用収益	33
数理計算上の差異の費用処理額	22
簡便法で計算した退職給付費用	313
その他	20
確定給付制度に係る退職給付費用	805

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

数理計算上の差異	143 百万円
合計	143

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	53 百万円
合計	53

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	83%
現金及び預金	1%
株式	9%
その他	7%
合計	100%

(注) 年金資産合計は、全て企業年金制度に対して設定した退職給付信託であります。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.95%
長期期待運用収益率	2.50%
予想昇給率	3.00%

3 確定拠出制度

当連結会計年度における、当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は280百万円であります。

(複数事業主制度に係る注記)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社2社は、確定給付型の制度として、東京薬業企業年金基金に加入しております。自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であるため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、10百万円でありま

す。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況(2018年3月31日現在)

年金資産の額	531,843 百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	512,770
差引額	19,073

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合(2019年3月31日現在)

2.0%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高 23,254百万円、剰余金11,381百万円、別途積立金30,947百万円であります。本制度における過去勤務債務残高の内訳は特別掛金収入現価であり、償却方法は元利均等方式、償却残余期間は2018年3月31日現在で4年0ヵ月であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度、企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、当社及び一部の連結子会社は、確定拠出型の年金制度を設けております。なお、一部の退職給付制度には、退職給付信託が設定されております。

当社及び一部の連結子会社は、東京薬業企業年金基金に加入しております。

なお、当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職等に際して、割増退職金を支払う場合があります。また、一部の連結子会社が有する企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

退職給付債務の期首残高	8,013 百万円
勤務費用	389
利息費用	76
数理計算上の差異の発生額	44
退職給付の支払額	443
その他	3
退職給付債務の期末残高	8,082

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

年金資産の期首残高	1,299 百万円
期待運用収益	32
数理計算上の差異の発生額	10
事業主からの拠出額	4
退職給付の支払額	66
年金資産の期末残高	1,280

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	2,750 百万円
退職給付費用	429
退職給付の支払額	157
制度への拠出額	115
その他	33
退職給付に係る負債の期末残高	2,940

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

積立型制度の退職給付債務	9,322 百万円
年金資産	2,355
	6,966
非積立型制度の退職給付債務	2,775
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	9,742
退職給付に係る負債	9,819
退職給付に係る資産	77
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	9,742

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	389 百万円
利息費用	76
期待運用収益	32
数理計算上の差異の費用処理額	8
簡便法で計算した退職給付費用	429
その他	44
確定給付制度に係る退職給付費用	914

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

数理計算上の差異	25 百万円
合計	25

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	28 百万円
合計	28

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	11%
現金及び預金	2%
株式	86%
その他	1%
合計	100%

(注) 年金資産合計は、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が86%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.95%
長期期待運用収益率	2.50%
予想昇給率	3.00%

3 確定拠出制度

当連結会計年度における、当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は368百万円であります。

(複数事業主制度に係る注記)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の制度として、東京薬業企業年金基金に加入しております。自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であるため、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、13百万円でありま

す。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況(2019年3月31日現在)

年金資産の額	157,063 百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	151,840
差引額	5,223

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合(2020年3月31日現在)

2.3%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の未償却過去勤務債務残高13,593百万円、当年度不足額136,643百万円、別途積立金155,460百万円であります。本制度における未償却過去勤務債務残高の内訳は特別掛金収入現価であり、償却方法は元利均等方式、償却残余期間は2019年3月31日現在で5年5ヵ月であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
(繰延税金資産)		
未払事業税	121百万円	97百万円
貸倒引当金	38	435
賞与引当金	815	739
退職給付に係る負債	2,904	2,981
役員退職慰労引当金	62	62
繰越欠損金	209	227
固定資産未実現利益	503	1,187
賞与分社会保険料	107	96
会員権評価減	31	30
減損損失	206	189
その他	1,340	1,299
繰延税金資産小計	6,340	7,346
評価性引当額	1,068	1,026
繰延税金資産合計	5,272	6,319
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	582	562
その他有価証券評価差額金	4,243	3,388
その他	1,709	1,748
繰延税金負債合計	6,535	5,699
繰延税金資産の純額		620
繰延税金負債の純額	1,262	

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
永久に損金に算入されない項目 (交際費等)	0.7	0.6
永久に益金に算入されない項目 (受取配当金)	0.7	1.0
子会社使用税率差異	3.0	3.1
持分法投資利益	1.8	2.6
評価性引当額の増減	0.5	0.3
その他	3.3	2.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.6	26.6

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用の不動産(土地を含む。)を有しております。

2019年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は461百万円(営業外収益に計上)であります。

2020年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は464百万円(賃貸収益は営業外収益に、主な賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額並びに時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額			連結決算日における時価
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
6,815	57	6,758	12,352

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 主な変動

減価償却以外の特段の変動理由はありません。

3 時価の算定方法

一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく金額であります。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額			連結決算日における時価
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
6,758	393	6,364	10,800

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 主な変動

減価償却以外の特段の変動理由はありません。

3 時価の算定方法

一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、経営組織の形態と製品及びサービスの特性に基づいて、「薬品事業」、「装置事業」及び「加工事業」の3つを報告セグメントとしております。

「薬品事業」は耐食性、耐磨耗性、潤滑性等の機能性向上を目的に、金属等の表面に化成皮膜を施し、素材の付加価値を高める薬剤等を中心に製造・販売を、「装置事業」は前処理設備、塗装設備、粉体塗装設備等の製造・販売を、「加工事業」は熱処理加工、防錆加工、めっき加工等の表面処理の加工サービス提供を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は、主に市場価格や製造原価に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	47,658	30,514	46,034	124,206	5,000	129,207	-	129,207
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,065	461	39	1,566	1,315	2,881	2,881	-
計	48,723	30,975	46,074	125,773	6,315	132,089	2,881	129,207
セグメント利益又は 損失()	8,581	1,125	8,354	18,062	237	18,300	1,277	17,023
セグメント資産	57,211	21,400	78,358	156,970	4,046	161,017	57,801	218,818
その他の項目								
減価償却費	1,458	141	3,556	5,156	203	5,360	632	5,992
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,150	123	5,436	7,709	177	7,887	648	8,536

(注)1 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、ビルメンテナンス事業、運送事業、太陽光発電事業、新規事業等を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失()の調整額 1,277百万円には、セグメント間取引消去431百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,708百万円が含まれております。なお、全社費用は、各報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術研究費であります。

(2) セグメント資産の調整額57,801百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産81,070百万円が含まれております。なお、全社資産の主なものは、提出会社の一般管理部門及び研究部門に係る資産であります。

3 セグメント利益又は損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメント資産に含まれる持分法適用会社への投資額は10,392百万円であり、主に提出会社の一般管理部門に全社資産として計上されております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸 表計上額 (注3)
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に対する 売上高	44,854	24,497	45,199	114,551	4,477	119,028	-	119,028
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,065	671	26	1,763	1,442	3,206	3,206	-
計	45,920	25,169	45,225	116,315	5,919	122,234	3,206	119,028
セグメント利益又は 損失()	7,546	595	7,323	15,465	1,123	14,341	1,739	12,601
セグメント資産	54,352	19,713	77,356	151,423	4,291	155,714	61,059	216,773
その他の項目								
減価償却費	1,740	205	3,847	5,793	182	5,976	539	6,516
のれんの償却額	-	-	49	49	-	49	-	49
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,826	239	5,518	8,583	173	8,757	216	8,974

(注)1 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、ビルメンテナンス事業、運送事業、太陽光発電事業、新規事業等を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失()の調整額 1,739百万円には、セグメント間取引消去154百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 1,894百万円が含まれております。なお、全社費用は、各報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術研究費であります。

(2) セグメント資産の調整額61,059百万円には、各報告セグメントに配分していない全社資産84,971百万円が含まれております。なお、全社資産の主なもの、提出会社の一般管理部門及び研究部門に係る資産であります。

3 セグメント利益又は損失()は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメント資産に含まれる持分法適用会社への投資額は11,587百万円であり、主に提出会社の一般管理部門に全社資産として計上されております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	欧米	その他	合計
73,009	47,643	8,546	8	129,207

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	欧米	合計
33,392	20,482	7,101	60,976

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	欧米	その他	合計
77,635	33,655	7,733	4	119,028

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	欧米	合計
34,685	20,422	7,368	62,476

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
減損損失	79	-	-	79	-	79	-	79

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
当期償却額	-	-	-	-	-	-	-	-
当期末残高	-	-	933	933	-	933	-	933

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	薬品事業	装置事業	加工事業	計				
当期償却額	-	-	49	49	-	49	-	49
当期末残高	-	-	474	474	-	474	-	474

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	1,167円46銭	1,203円34銭
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表の純資産の部の合計額 (百万円)	166,759	170,947
普通株式に係る純資産額(百万円)	140,457	143,234
差額の主な内訳(百万円)		
非支配株主持分	26,302	27,713
普通株式の発行済株式数(株)	132,604,524	132,604,524
普通株式の自己株式数(株)	12,294,162	13,574,125
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	120,310,362	119,030,399

項目	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益	94円20銭	78円87銭
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	11,424	9,449
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	11,424	9,449
普通株式の期中平均株式数(株)	121,279,001	119,811,578

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 2 株主資本において自己株式として計上されている資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。
- 1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数
前連結会計年度182,709株、当連結会計年度176,700株
- 1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数
前連結会計年度176,700株、当連結会計年度176,700株

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率(%)	返済期限
短期借入金	50	-	-	
1年内返済予定の長期借入金	769	511	1.35	
1年内返済予定のリース債務	283	173	-	
長期借入金(1年内返済予定のものを除く。)	1,214	983	1.75	2021年11月～ 2023年9月
リース債務(1年内返済予定のものを除く。)	179	186	-	2021年4月～ 2026年12月
その他有利子負債	-	-	-	
合計	2,497	1,855		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
2 長期借入金及びリース債務(1年内返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	448	348	186	-
リース債務	114	50	16	4

- 3 リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	30,696	59,967	88,737	119,028
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	5,244	9,284	13,221	15,560
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	3,421	5,875	8,258	9,449
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	28.46	48.87	68.75	78.87

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	28.46	20.41	19.87	9.99

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度末 (2019年3月31日)	当事業年度末 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,267	24,383
受取手形及び売掛金	1, 3 19,870	1 17,617
商品及び製品	1,045	1,037
仕掛品	66	81
原材料及び貯蔵品	1,164	1,039
その他	1 4,069	1 4,175
貸倒引当金	164	1,449
流動資産合計	47,318	46,885
固定資産		
有形固定資産		
建物	8,128	8,113
機械及び装置	2,624	3,011
土地	9,181	10,137
建設仮勘定	314	536
その他	1,337	1,334
有形固定資産合計	21,586	23,133
無形固定資産		
	238	212
投資その他の資産		
投資有価証券	23,408	19,925
関係会社株式	11,999	12,247
関係会社出資金	4,999	5,499
その他	1 6,056	1 5,509
貸倒引当金	82	80
投資その他の資産合計	46,380	43,101
固定資産合計	68,205	66,448
資産合計	115,524	113,333

(単位：百万円)

	前事業年度末 (2019年3月31日)	当事業年度末 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1, 3 8,720	1 7,278
預り金	1 9,428	1 11,571
賞与引当金	1,630	1,390
その他	1, 3 4,305	1 3,789
流動負債合計	24,084	24,029
固定負債		
退職給付引当金	6,857	6,925
その他	1 1,903	1 820
固定負債合計	8,760	7,746
負債合計	32,845	31,775
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,560	4,560
資本剰余金		
資本準備金	3,912	3,912
その他資本剰余金	133	133
資本剰余金合計	4,046	4,046
利益剰余金		
利益準備金	1,140	1,140
その他利益剰余金		
配当積立金	500	500
研究開発積立金	500	500
固定資産圧縮積立金	336	310
別途積立金	62,400	68,700
繰越利益剰余金	9,275	5,737
利益剰余金合計	74,152	76,888
自己株式	8,808	10,632
株主資本合計	73,950	74,862
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,728	6,695
評価・換算差額等合計	8,728	6,695
純資産合計	82,678	81,557
負債純資産合計	115,524	113,333

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
売上高	1 51,381	1 46,786
売上原価	1 33,572	1 30,192
売上総利益	17,808	16,593
販売費及び一般管理費	1, 2 12,641	1, 2 13,413
営業利益	5,166	3,179
営業外収益		
受取利息	1 133	1 125
受取配当金	1 2,451	1 2,437
受取賃貸料	1 431	1 833
受取技術料	1 1,158	1 1,065
為替差益	48	-
貸倒引当金戻入額	0	7
その他	1 290	1 241
営業外収益合計	4,514	4,710
営業外費用		
支払利息	1 14	1 15
賃貸費用	-	1 386
為替差損	-	139
たな卸資産除却損	159	-
その他	1 202	1 211
営業外費用合計	376	753
経常利益	9,305	7,136
特別利益		
固定資産売却益	6	152
投資有価証券売却益	0	152
抱合せ株式消滅差益	2,076	-
特別利益合計	2,082	304
特別損失		
固定資産除売却損	110	370
投資有価証券売却損	-	70
投資有価証券評価損	100	7
関係会社株式評価損	68	-
その他	6	0
特別損失合計	286	448
税引前当期純利益	11,102	6,992
法人税、住民税及び事業税	2,320	1,837
法人税等調整額	151	286
法人税等合計	2,168	1,550
当期純利益	8,933	5,441

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本												自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金									
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計			
						配当積立金	研究開発積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	4,560	3,912	133	4,046	1,140	500	500	355	57,500	8,207	68,203	7,041	69,768	
当期変動額														
剰余金の配当										2,984	2,984		2,984	
固定資産圧縮積立金の取崩								19		19	-		-	
別途積立金の積立									4,900	4,900	-		-	
当期純利益										8,933	8,933		8,933	
自己株式の取得												1,781	1,781	
自己株式の処分												15	15	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)													-	
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	19	4,900	1,068	5,948	1,766	4,182	
当期末残高	4,560	3,912	133	4,046	1,140	500	500	336	62,400	9,275	74,152	8,808	73,950	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	11,983	11,983	81,751
当期変動額			
剰余金の配当			2,984
固定資産圧縮積立金の取崩			-
別途積立金の積立			-
当期純利益			8,933
自己株式の取得			1,781
自己株式の処分			15
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	3,255	3,255	3,255
当期変動額合計	3,255	3,255	927
当期末残高	8,728	8,728	82,678

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本												自己株式	株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金									
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金					利益剰余金合計			
						配当積立金	研究開発積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	4,560	3,912	133	4,046	1,140	500	500	336	62,400	9,275	74,152	8,808	73,950	
当期変動額														
剰余金の配当										2,705	2,705		2,705	
固定資産圧縮積立金の取崩								25		25	-		-	
別途積立金の積立									6,300	6,300	-		-	
当期純利益										5,441	5,441		5,441	
自己株式の取得												1,824	1,824	
自己株式の処分			0	0								0	0	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)													-	
当期変動額合計	-	-	0	0	-	-	-	25	6,300	3,538	2,736	1,824	911	
当期末残高	4,560	3,912	133	4,046	1,140	500	500	310	68,700	5,737	76,888	10,632	74,862	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	8,728	8,728	82,678
当期変動額			
剰余金の配当			2,705
固定資産圧縮積立金の取崩			-
別途積立金の積立			-
当期純利益			5,441
自己株式の取得			1,824
自己株式の処分			0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,032	2,032	2,032
当期変動額合計	2,032	2,032	1,121
当期末残高	6,695	6,695	81,557

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっております。

(3) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定してあります。)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

商品、製品、原材料.....総平均法

仕掛品.....売価還元法

貯蔵品.....最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く。)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。また、主な耐用年数は下記のとおりであります。

建物及び構築物 2～50年

機械装置及び運搬具 2～15年

また、2007年3月31日以前に取得したのものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与で支給対象期間に対応して費用負担するため、支給見積額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

(5) 役員株式給付引当金

内規に基づく役員への当社株式の交付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

完成工事高の計上は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

6 その他の財務諸表作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。なお、資産に係る控除対象外消費税等は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「流動資産」の「受取手形」、「売掛金」は、連結財務諸表と表示方法を統一するため、当事業年度より「受取手形及び売掛金」に合算して表示しております。また、「有価証券」、「前渡金」、「前払費用」、「1年内回収予定の長期貸付金」は、金銭的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた、「受取手形」6,018百万円、「売掛金」13,852百万円、「有価証券」1,500百万円、「前渡金」245百万円、「前払費用」143百万円、「1年内回収予定の長期貸付金」485百万円、「その他」1,694百万円は、「受取手形及び売掛金」19,870百万円、「その他」4,069百万円として組替えております。

前事業年度において、独立掲記しておりました「有形固定資産」の「構築物」、「車両運搬具」、「工具、器具及び備品」、「リース資産」は、金銭的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「有形固定資産」に表示していた、「構築物」505百万円、「車両運搬具」48百万円、「工具、器具及び備品」711百万円、「リース資産」71百万円は、「その他」1,337百万円として組替えております。

前事業年度において、独立掲記しておりました「投資その他の資産」の「長期貸付金」、「保証金」は、金銭的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」に表示していた、「長期貸付金」3,520百万円、「保証金」324百万円、「その他」2,212百万円は、「その他」6,056百万円として組替えております。

前事業年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「支払手形」、「買掛金」は、連結財務諸表と表示方法を統一するため、当事業年度より「支払手形及び買掛金」に合算して表示しております。また、「リース債務」、「未払金」、「未払費用」、「未払法人税等」、「未払消費税等」、「前受金」は、金銭的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた、「支払手形」1,178百万円、「買掛金」7,542百万円、「リース債務」49百万円、「未払金」1,619百万円、「未払費用」799百万円、「未払法人税等」959百万円、「未払消費税等」210百万円、「前受金」255百万円、「その他」410百万円は、「支払手形及び買掛金」8,720百万円、「その他」4,305百万円として組替えております。

前事業年度において、独立掲記しておりました「固定負債」の「長期借入金」、「リース債務」、「役員株式給付引当金」、「繰延税金負債」は、金銭的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「固定負債」に表示していた、「長期借入金」200百万円、「リース債務」21百万円、「役員株式給付引当金」80百万円、「繰延税金負債」1,072百万円、「その他」528百万円は、「その他」1,903百万円として組替えております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社は、固定資産の減損会計等の会計上の見積りにおいて、期末日以降財務諸表作成時までに入手可能な情報を考慮し、当期末の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、翌事業年度の当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度末 (2019年3月31日)	当事業年度末 (2020年3月31日)
短期金銭債権	3,474百万円	3,253百万円
長期金銭債権	4,073	4,330
短期金銭債務	10,510	14,169
長期金銭債務	55	56

2 偶発債務

下記会社の金融機関借入金に対し債務保証を行っております。

	前事業年度末 (2019年3月31日)	当事業年度末 (2020年3月31日)
パーカーツルテックメキシカーナ(株)	1,132百万円	863百万円
パーカーツルテック(株)	110	-
合計	1,243	863

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度末 (2019年3月31日)	当事業年度末 (2020年3月31日)
受取手形	491百万円	- 百万円
支払手形	260	-
設備関係支払手形	29	-

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	5,599百万円	4,824百万円
仕入高	9,101	7,196
営業取引以外の取引高	3,664	3,026

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
従業員給料	2,742百万円	2,709百万円
賞与引当金繰入額	990	838
役員賞与引当金繰入額	62	59
退職給付費用	404	394
役員株式給付引当金繰入額	31	23
減価償却費	261	269
貸倒引当金繰入額	1	1,299
技術研究費	1,701	1,739
おおよその割合		
販売費	42.77%	48.44%
一般管理費	57.23%	51.56%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2019年3月31日)

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	225	3,102	2,876
計	225	3,102	2,876

当事業年度(2020年3月31日)

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
関連会社株式	225	2,441	2,215
計	225	2,441	2,215

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(1) 子会社株式	11,596	11,845
(2) 関連会社株式	176	176
計	11,773	12,021

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	51百万円	444百万円
賞与引当金	499	425
退職給付引当金	2,091	2,102
減損損失	206	189
その他	746	922
繰延税金資産小計	3,594	4,084
評価性引当額	563	552
繰延税金資産合計	3,030	3,532
(繰延税金負債)		
固定資産圧縮積立金	148	137
その他有価証券評価差額金	3,937	3,267
その他	17	15
繰延税金負債合計	4,103	3,420
繰延税金資産の純額	-	111
繰延税金負債の純額	1,072	-

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
永久に損金に算入されない項目 (交際費等)	0.7	0.7
永久に益金に算入されない項目 (受取配当金)	5.2	8.1
試験研究費税額控除	1.4	2.2
評価性引当額の増減	0.9	0.2
抱合せ株式消滅差益	5.7	-
その他	0.4	1.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	19.5	22.2

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	8,128	476	42	449	8,113	11,889
	構築物	505	121	3	67	556	1,797
	機械及び装置	2,624	1,193	6	800	3,011	10,759
	車両運搬具	48	25	1	27	44	181
	工具、器具及び 備品	711	398	2	416	691	4,335
	土地	9,181	1,102	146	-	10,137	-
	リース資産	71	27	0	54	43	61
	建設仮勘定	314	557	335	-	536	-
	計	21,586	3,902	539	1,816	23,133	29,025
無形固定資産	借地権	23	-	-	-	23	-
	ソフトウェア	143	28	4	45	121	-
	その他	71	2	1	4	68	-
	計	238	30	5	50	212	-

(注) 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	加工工場の設備新設及び更新
土地	倉庫新設のための土地購入

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	247	1,291	8	1,530
賞与引当金	1,630	1,390	1,630	1,390
退職給付引当金	6,857	445	376	6,925
役員株式給付引当金	80	23	-	103

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の 買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのURLは次のとおりです。 https://www.parker.co.jp/
株主に対する特典	該当事項なし

- (注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
- 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 - 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 - 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
 - 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書	事業年度 第134期	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	2019年6月27日 関東財務局長に提出
(2) 内部統制報告書及びその添付書類			2019年6月27日 関東財務局長に提出
(3) 四半期報告書及び確認書	第135期 第1四半期	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	2019年8月14日 関東財務局長に提出
	第135期 第2四半期	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	2019年11月14日 関東財務局長に提出
	第135期 第3四半期	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	2020年2月14日 関東財務局長に提出
(4) 臨時報告書			企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 2019年7月1日 関東財務局長に提出
(5) 自己株券買付状況報告書	報告期間	自 2019年11月1日 至 2019年11月30日	2019年12月11日 関東財務局長に提出
	報告期間	自 2020年2月1日 至 2020年2月29日	2020年3月11日 関東財務局長に提出
	報告期間	自 2020年3月1日 至 2020年3月31日	2020年4月23日 関東財務局長に提出
	報告期間	自 2020年4月1日 至 2020年4月30日	2020年5月15日 関東財務局長に提出
	報告期間	自 2020年5月1日 至 2020年5月31日	2020年6月12日 関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年6月26日

日本パーカライジング株式会社
取締役会 御中

P w C あ ら た 有 限 責 任 監 査 法 人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 原 光 爵

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 那 須 伸 裕

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 葉 達 哉

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本パーカライジング株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本パーカライジング株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

その他の事項

会社の2019年3月31日をもって終了した前連結会計年度の連結財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該連結財務諸表に対して2019年6月27日付けで無限定適正意見を表明している。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本パーカライジング株式会社の2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、日本パーカライジング株式会社が2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月26日

日本パーカライジング株式会社
取締役会 御中

P w C あ ら た 有 限 責 任 監 査 法 人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 原 光 爵

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 那 須 伸 裕

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千 葉 達 哉

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本パーカライジング株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第135期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本パーカライジング株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

その他の事項

会社の2019年3月31日をもって終了した前会計年度の財務諸表は、前任監査人によって監査されている。前任監査人は、当該財務諸表に対して2019年6月27日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。